

NETIMPRESS

NETIMPRESS next
スタートアップマニュアル

改訂履歴

版	発行日付	変更内容
第 1 版	2015.03.31	新規発行

< ご注意 >

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容については、改良のため予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容について、ご不審な点やお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4) 本製品を運用した結果の内容の影響については、(3)項にかかわらず、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本書に記載されている会社名・製品名は、各社の登録商標、または商標です。

はじめに

「NETIMPRESS next スタートアップマニュアル」(以下、本マニュアル)は、NETIMPRESS next シリーズ製品を購入してからプログラミングを開始するまでの一連の操作を順に示したドキュメントです。

NETIMPRESS next シリーズ製品で、プログラミング環境を構築する前にお読みください。

また、本マニュアルで使用している画面は、Windows 7 環境で作成しています。他の環境をお使いの場合、表示や操作手順が異なる場合があります。

 本マニュアルにおける「プログラミング」とは、対象マイコン内蔵フラッシュメモリ、または、対象マイコンに接続されている外部フラッシュメモリへのデータ書き込みのことをさしています。

アイコンについて

本ガイドで使用しているアイコンには、以下の意味があります。



特に重要な情報を記載しています。操作する際は十分に注意してください。



操作を進める上で役に立つ情報やアドバイスなどの補足事項を記載しています。



本マニュアルのほかのページやほかのマニュアルなどの参照情報を記載しています。

目次

はじめに	2
アイコンについて	2
1. 概要・特長	5
1.1. NETIMPRESS next シリーズの概要	5
1.2. 通信環境	6
1.3. プログラミング開始までの流れ.....	7
2. ハードウェア、ソフトウェアの確認(標準的な構成).....	8
2.1. ハードウェア.....	8
2.2. ソフトウェア.....	9
3. ソフトウェアのセットアップ.....	10
3.1. ソフトウェアのインストール.....	10
3.1.1. AZ490(リモートコントローラ)のインストール手順	11
3.1.2. AZ481(KEY ファイルジェネレータ)のインストール手順	13
3.2. Ethernet 接続設定	15
3.2.1. プログラム本体の IP アドレス設定.....	15
3.2.2. PC との接続 (AZ490:リモートコントローラ設定).....	18
3.2.3. Ethernet 接続時にエラーが発生した場合の確認事項	20
4. プログラミング環境のセットアップ	21
4.1. ライセンスの追加.....	21
4.1.1. コントロールモジュールへのライセンス追加手順	21
4.2. YIM フォルダの作成	244
4.3. 各種設定ファイルのロード	266
4.3.1. 定義体ファイルのロード.....	266
4.3.2. パラメータファイルのロード	27
4.3.3. 各種バンドルファイルのロード	288
4.3.4. パラメータの設定	29
4.3.5. オブジェクトファイル(書き込みファイル)のロード.....	29
4.4. ターゲットシステムとの接続.....	311
4.4.1. ターゲットプローブを使用して接続する場合.....	311
4.4.2. アダプタを使用して接続する場合	333
5. プログラミング実行.....	344
6. AZ490(リモートコントローラ)画面の説明	366

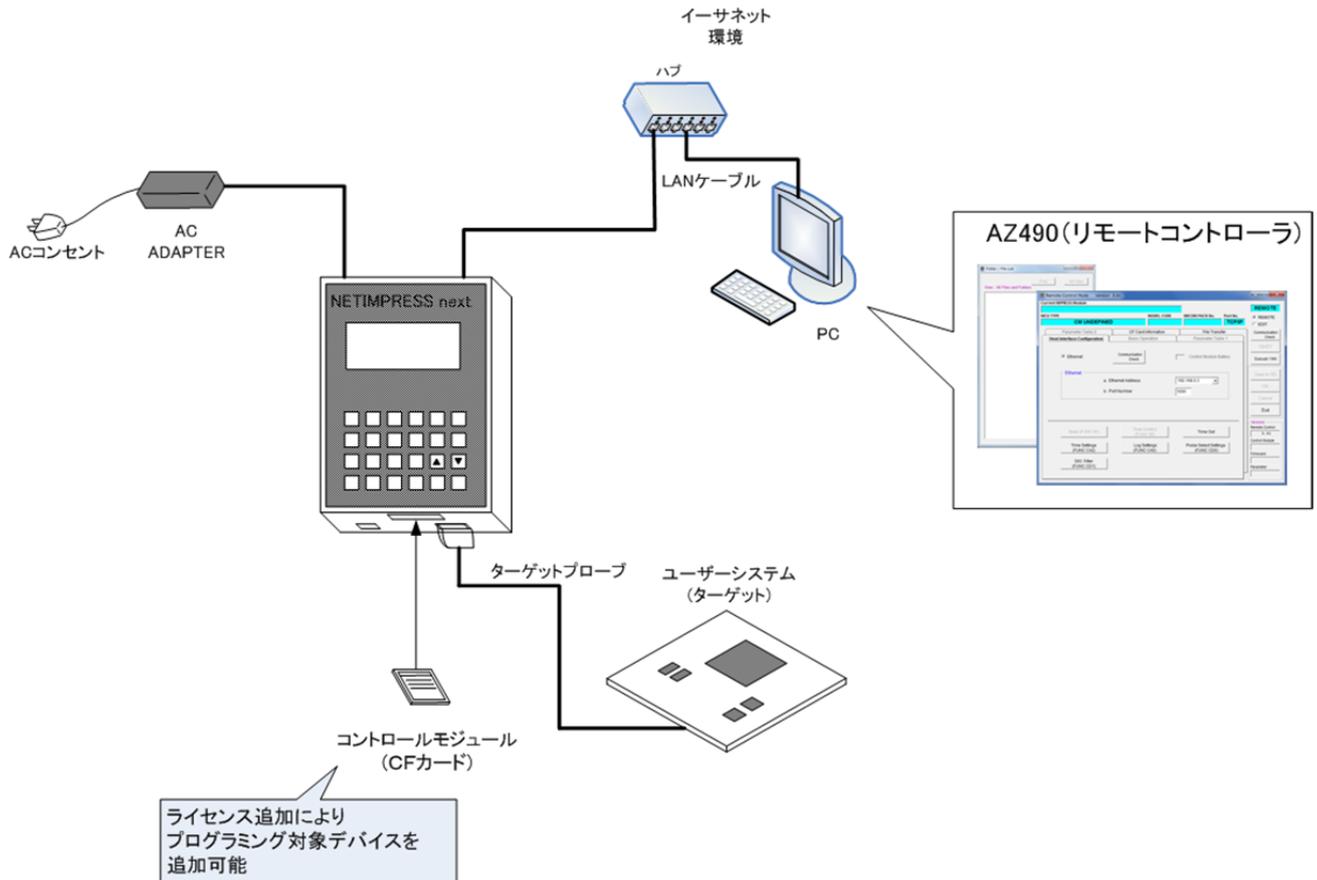
6.1. Basic Operation(デバイスファンクション実行画面).....	377
6.2. Parameter Table 1(パラメータ設定画面).....	388
6.3. File Transfer(ファイル転送画面).....	39
7. YIM フォルダ.....	400
7.1. YIM フォルダの構成.....	400
7.2. プログラミング環境の管理.....	411
7.2.1. YIM フォルダの保存方法 (転送元の操作).....	411
7.2.2. YIM フォルダのロード方法 (転送先の操作).....	422
8. KEY ファイル.....	433
8.1. KEY ファイルの作成.....	433
9. YSM ファイルのバッファ領域 SUM 値チェック機能.....	455
9.1. YSM ファイルについて.....	455
9.2. YSM ファイルの作成.....	455
10. EXE キーと CSB ファイル.....	477
10.1. CSB ファイルのフォーマット.....	477
10.2. CSB ファイルの作成例.....	49
11. 用語一覧.....	500

1. 概要・特長

この章では、NETIMPRESS next シリーズの製品概要、プログラミング環境の構成、および、プログラミング開始までに必要な操作の流れについて説明します。

1.1. NETIMPRESS next シリーズの概要

NETIMPRESS next は、基板実装状態のまま、フラッシュ ROM 内蔵マイコン、ならびに、マイコンの外部バスに接続されたフラッシュ ROM への高速プログラミングをおこなうインサーキットプログラマです。



プログラマ本体に各マイコン用プログラミングファームデータを格納した CF カード(以下、コントロールモジュール)を挿入することで、各種デバイスに対応することができます。

コントロールモジュールには、お客様がご利用になるプログラミング条件をライセンス付加することによって、プログラミング対象デバイスを追加することができます。

プログラマ本体は、100BASE-TX のインターフェースを備えており、AZ490(リモートコントローラソフトウェア)を使用して、ホスト PC 上でプログラミング条件の設定とプログラマ本体の操作が可能です。

また、プログラミング条件は、コントロールモジュール内に保存されますので、スタンドアロン(PC レス)でのご使用いただけます。

AZ491(リモートパッケージ、有償ソフト)のご利用によって、自動制御の生産ラインシステムの構築も可能です。

コントロールモジュール (CF カード)

- マイコン用プログラミングファームデータを格納する CF カードです。プログラマ本体に挿入することで各種デバイスへの書き込みに対応することができます。
- ライセンスを追加することでプログラミング対象デバイスを追加することができます。
- 初期出荷時のコントロールモジュールにはライセンスが付加されておりません。ご使用の際には、ライセンスの追加を必ず行ってください。
 - ➡ **ライセンスの追加方法については、本マニュアルにある、「4.1 ライセンスの追加」を参照してください。**
- ライセンスがサポートしている、同じシリーズのマイコンへのプログラミングは、弊社から別途提供しているマイコンパックを適用することによって対応可能です。
 - ➡ **マイコンパックについては、本マニュアルにある、「4.3 各種ファイルのダウンロード」を参照してください。**
- 弊社提供のコントロールモジュールをお使いください。専用のコントロールモジュール以外では正常に動作致しません。(市販の CF カードはコントロールモジュールとしての使用はできません。)

1.2. 通信環境

ホスト PC とプログラマ本体の通信には、Ethernet 標準の TCP/IP を使用します。そのため、ホスト PC 側に対応するインターフェースが必要です。インターフェースがない場合には、増設してください。

(プログラマ本体側の端子は 10BASE-T / 100BASE-TX 規格に準拠しています)

1.3. プログラミング開始までの流れ

製品を購入してから、プログラミングを開始するまでの基本的な流れを以下に示します。

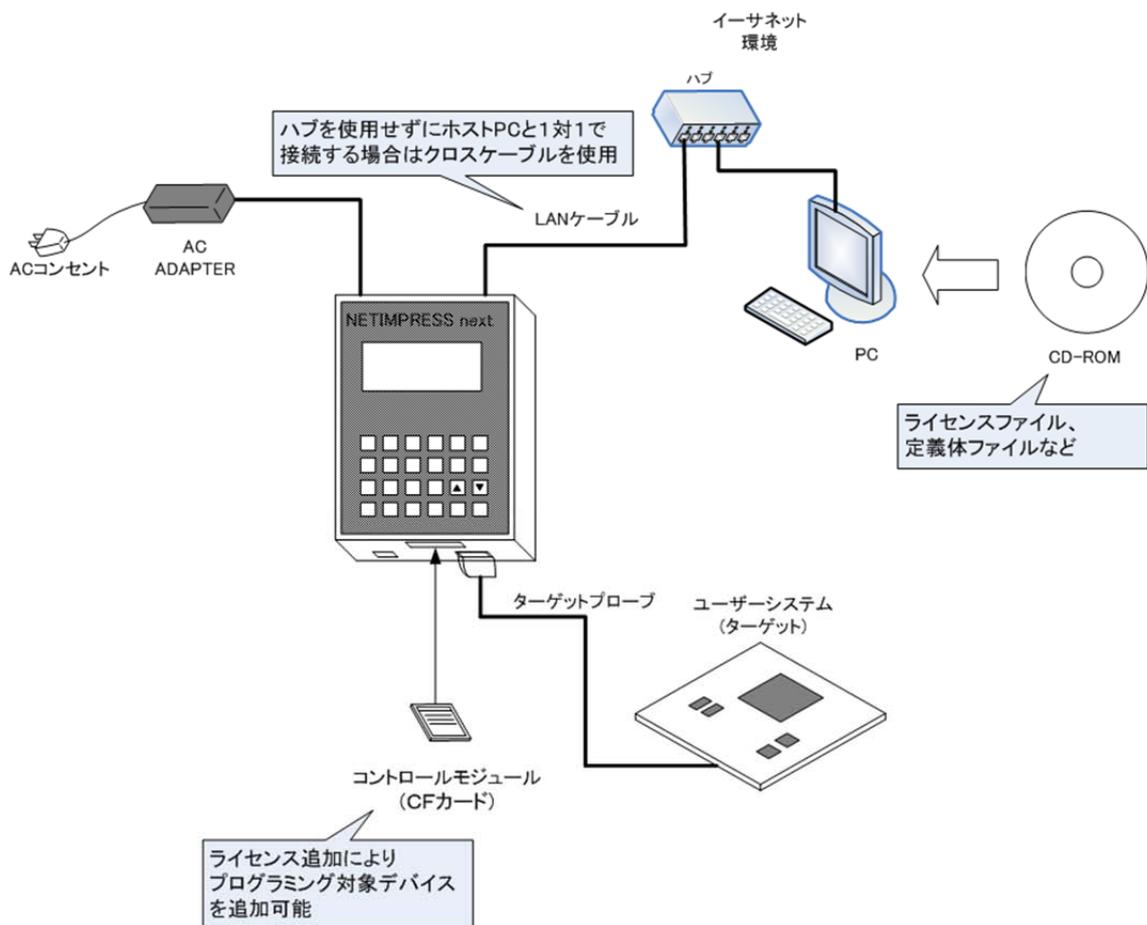
具体的な設定手順については、それぞれの参照先をご覧ください。



2. ハードウェア、ソフトウェアの確認(標準的な構成)

2.1. ハードウェア

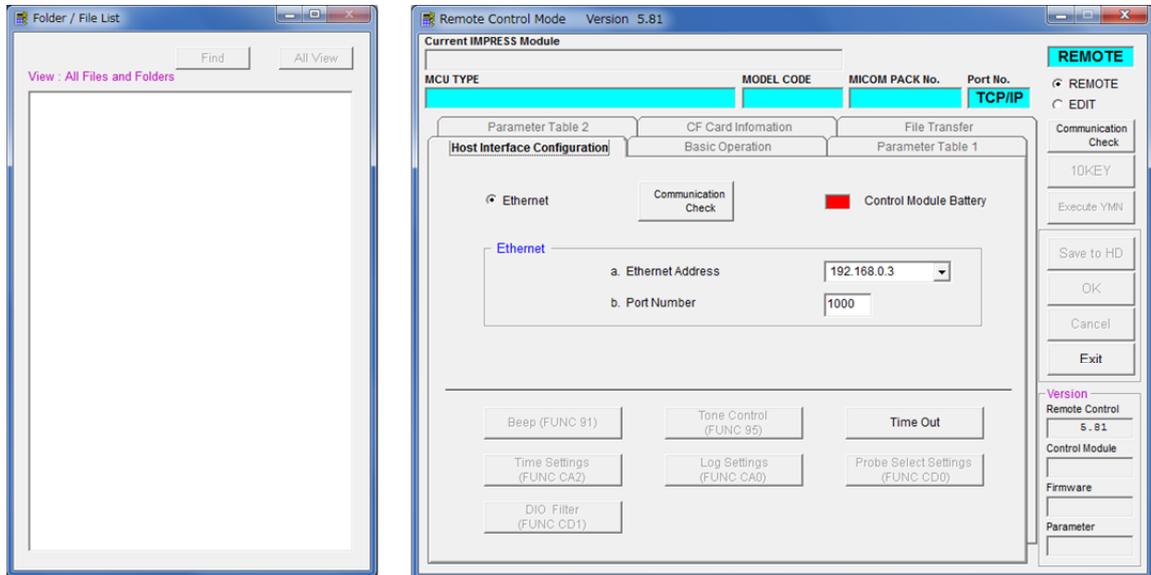
- NETIMPRESS next プログラム本体(型番 AF430)
- 専用 AC アダプタ
- コントロールモジュール (CF カード、型番 FX700)
- CD-ROM (ライセンスファイル, 定義体ファイルなど)
対象デバイスにより枚数が異なります。
- ターゲットプローブ / アダプタ
お客様のご利用になるターゲット環境により異なります。
- ホスト PC
Windows OS(Windows 7, Windows VISTA , Windows XP)にのみ対応。
- Ethernet ケーブル
ハブを使用せずにホスト PC と 1 対 1 で接続する場合はクロスケーブルが必要です。



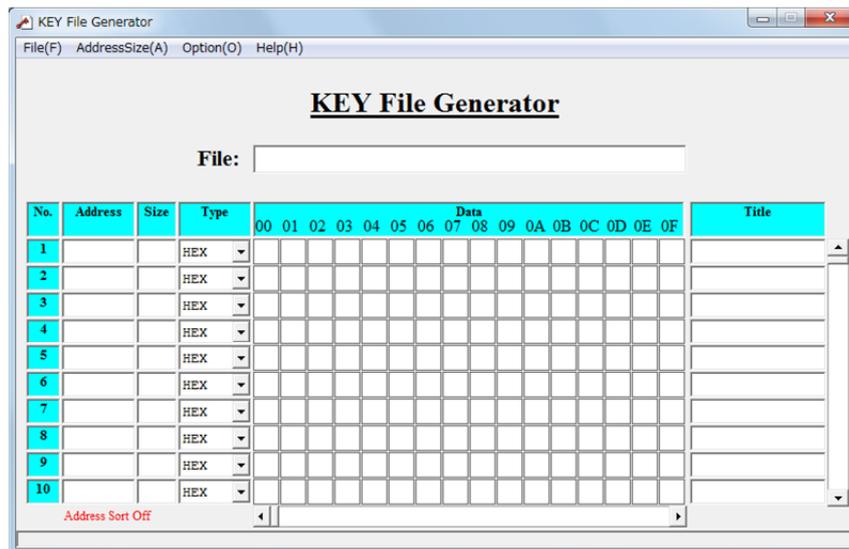
! 必ず、製品に付属の AC アダプタをご使用ください。

2.2. ソフトウェア

- AZ490 (リモートコントローラ)
各種ファイルのダウンロード、デバイスファクションの実行、各種パラメータの設定をおこなう際に使用します。



- AZ481 (KEY ファイルジェネレータ)
KEY ファイル(デバイスのセキュリティチェック用ファイル)の作成、YSM ファイル(オブジェクトの SUM 値チェック用ファイル)の作成の際に使用します。



3. ソフトウェアのセットアップ

3.1. ソフトウェアのインストール

プログラミング環境の構築にあたり、下記の2つのソフトウェアを使用します。

- AZ490 (リモートコントローラ)
- AZ481 (KEY ファイルジェネレータ)

これらの、プログラマへの各種設定をおこなうソフトウェアは弊社ホームページから提供しています。

下記の URL からダウンロード取得してください。

https://www.dts-insight.co.jp/support/support_netimpress/top/index.php?m=Software



本マニュアルでは、最新版の AZ490(Ver5.82)の使用を前提としています。古いバージョンをご使用の場合、画面構成が異なる箇所がありますので、上記リンクから最新版をダウンロード・インストールしてご使用下さい。

ソフトウェアは、自己解凍形式ファイルとなっていますので、ホスト PC 上で解凍の上、インストールを行ってください。ソフトウェアのインストールが完了すると、デフォルトでは、

Windows [スタート]メニュー - <すべてのプログラム> - <DTS INSIGHT Tools>

に、アイコンが登録されます。

➡ 各ソフトウェアの対応 OS など、インストールの諸条件については、

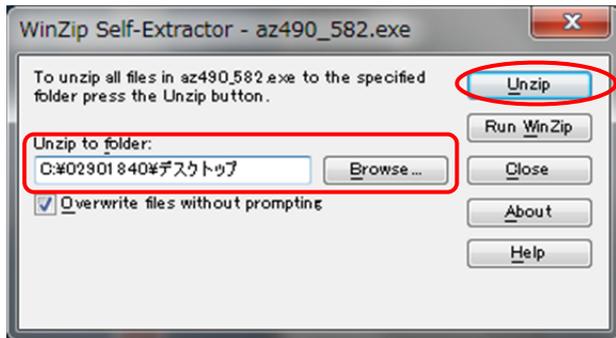
「AZ490 NETIMPRESS シリーズ用リモートコントローラ インストラクションマニュアル」
(AZ490mnJnn.pdf)

「AZ481 KEY File Generator KEY ファイル作成ツール インストラクションマニュアル」
(AZ481mnJnn.pdf)

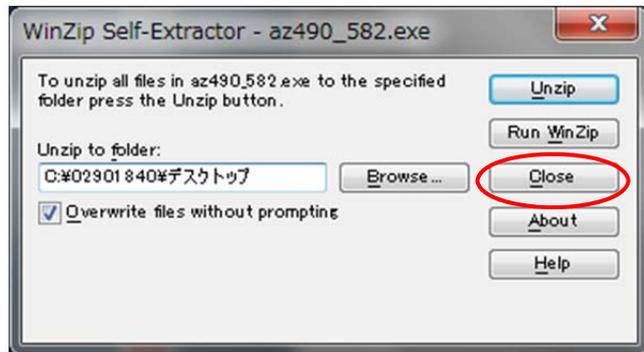
をご確認ください。(nn の部分は、マニュアルの版数を示しています)

3.1.1. AZ490(リモートコントローラ)のインストール手順

- ① ダウンロードした自己解凍形式ファイル(az490_nnn.exe。nnn はバージョン番号)をダブルクリックして起動します。
- ② 解凍先のパスを指定して、「Unzip」ボタンをクリックします。

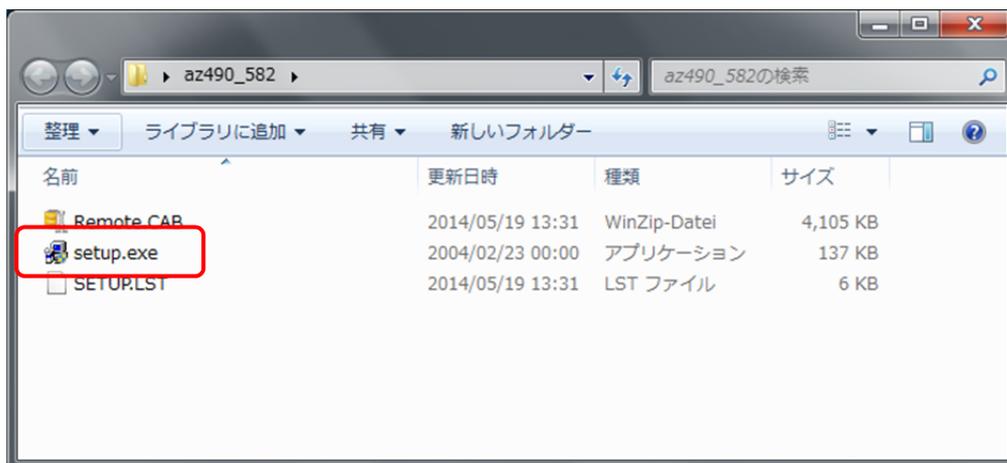


- ③ 下記のダイアログが表示されたら、「OK」ボタンをクリックして解凍を終了します。また、「Close」ボタンをクリックして、解凍先の指定ウィンドウを閉じます。

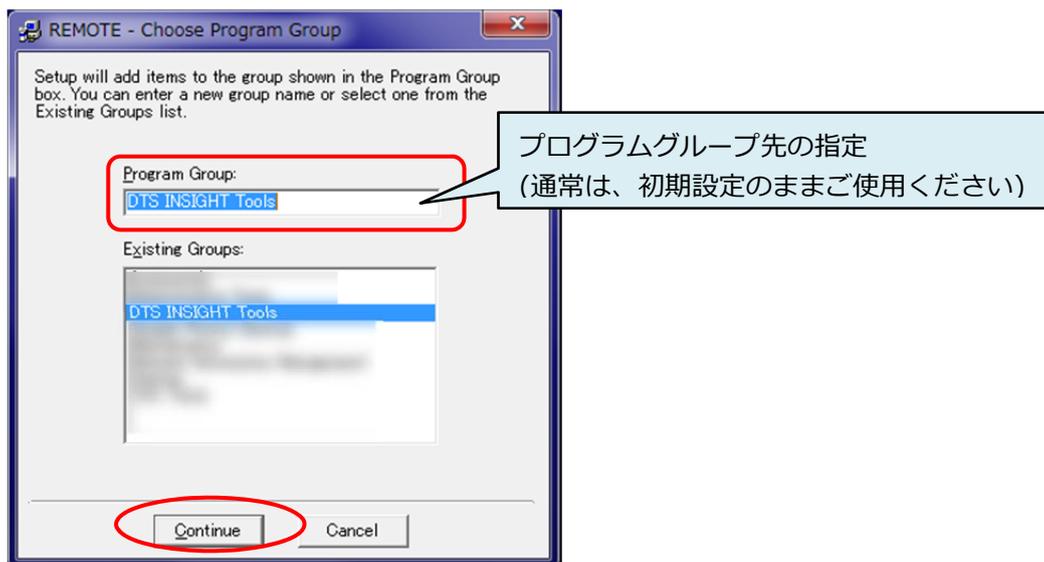
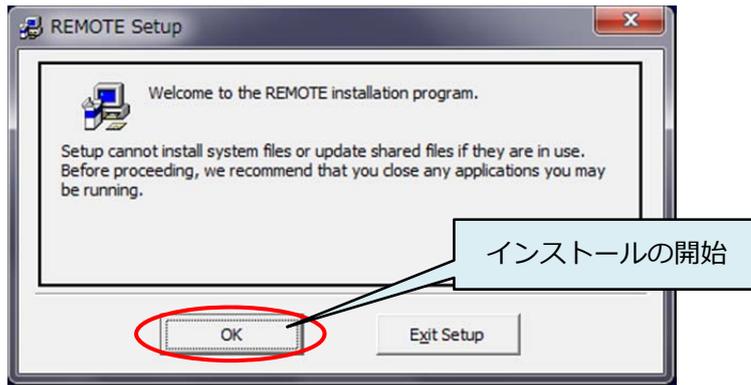


この時点では、まだインストールは完了していません。引き続き、以下の手順に従って、ソフトウェアのインストールをおこなってください。

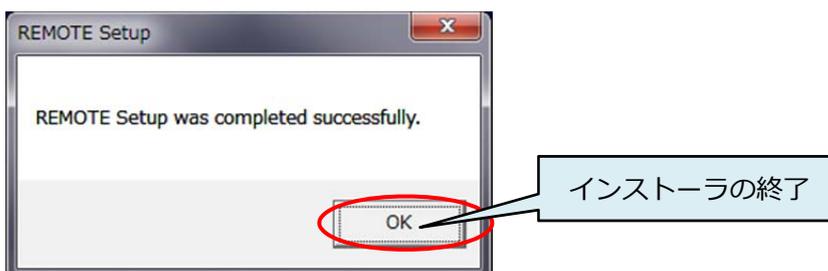
- ④ 解凍先のフォルダを開き、インストーラ(setup.exe)をダブルクリックして、インストールを開始します。



- ⑤ インストーラの指示に従って、AZ490(リモートコントローラ)のインストールをおこなってください。

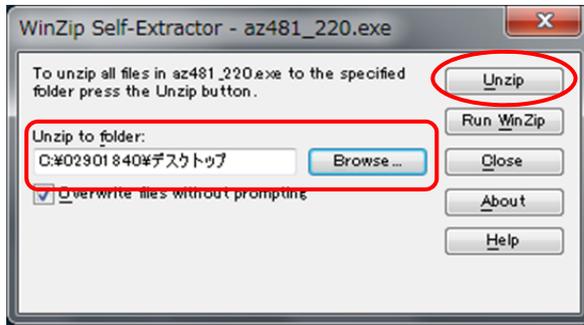


- ⑥ 下記のダイアログが表示されたら、インストール完了です。

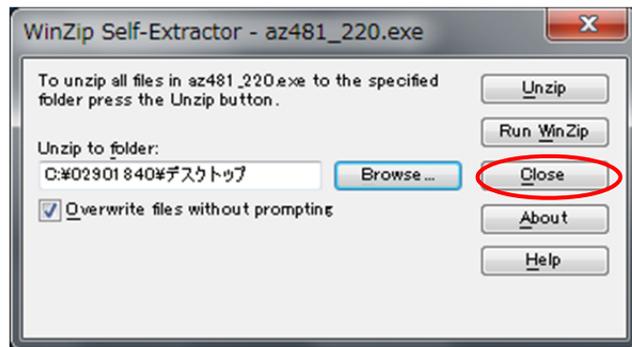


3.1.2. AZ481(KEY ファイルジェネレータ)のインストール手順

- ① ダウンロードした自己解凍形式ファイル(az481_nnn.exe。nnn はバージョン番号)をダブルクリックして起動します。
- ② 解凍先のパスを指定して、「Unzip」ボタンをクリックします。

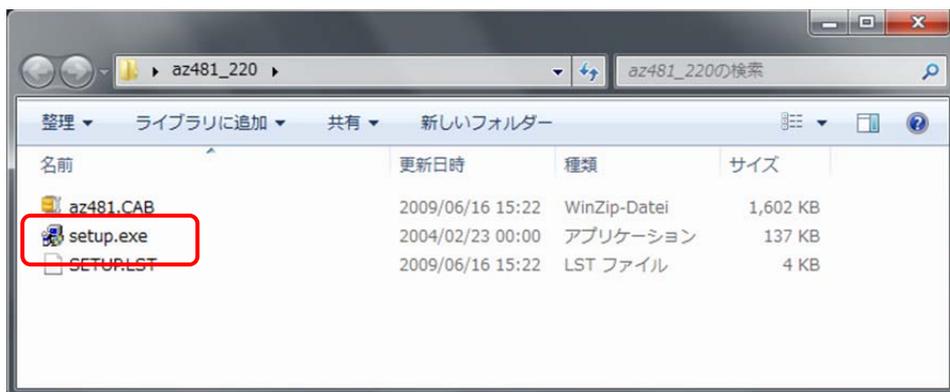


- ③ 下記のダイアログが表示されたら、「OK」ボタンをクリックして解凍を終了します。また、「Close」ボタンをクリックして、解凍先の指定ウィンドウを閉じます。

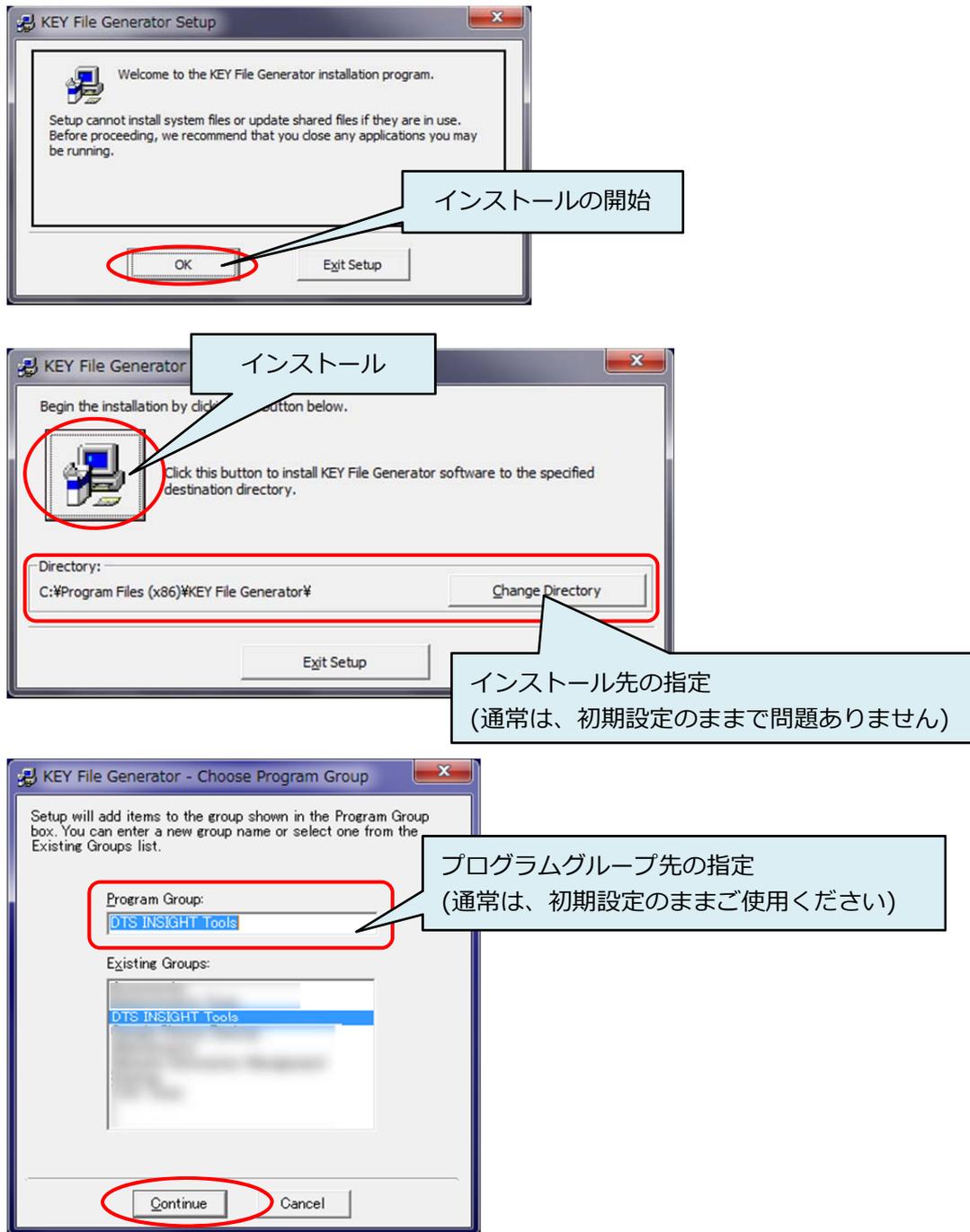


この時点では、まだインストールは完了していません。引き続き、以下の手順に従って、ソフトウェアのインストールをおこなってください。

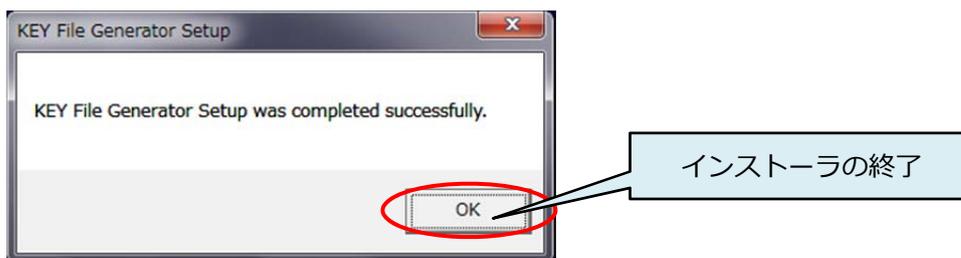
- ④ 解凍先のフォルダを開き、インストーラ(setup.exe)をダブルクリックして、インストールを開始します。



- ⑤ インストーラの指示に従って、AZ481(KEY ファイルジェネレータ)のインストールをおこなってください。



- ⑥ 下記のダイアログが表示されたら、インストール完了です。



3.2. Ethernet 接続設定

3.2.1. プログラマ本体の IP アドレス設定

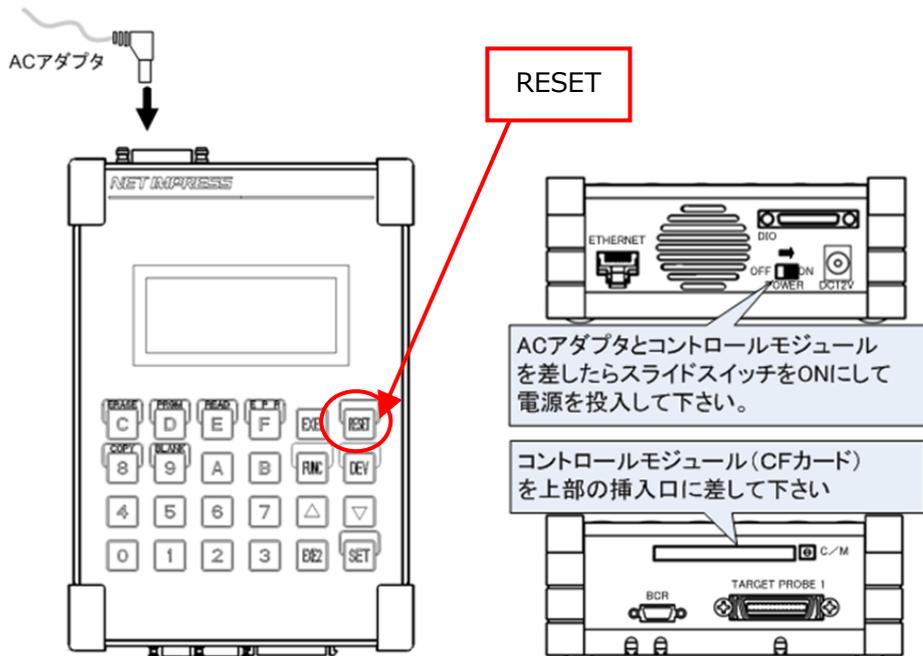
ホスト PC から Ethernet 経由でプログラマをコントロールできるようにするため、IP アドレスを設定します。
下記手順に従い、設定を行ってください。

※キー操作を誤った場合は、一度「RESET」ボタンを押し、再度②から設定を行ってください。

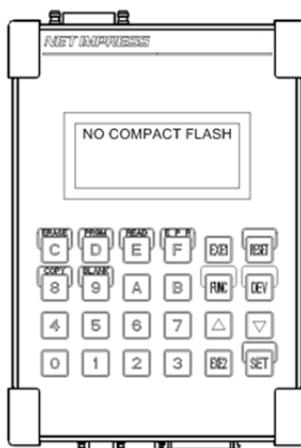


NETIMPRESS next は、DHCP には対応していません。固定 IP アドレスを割り当ててご使用ください。

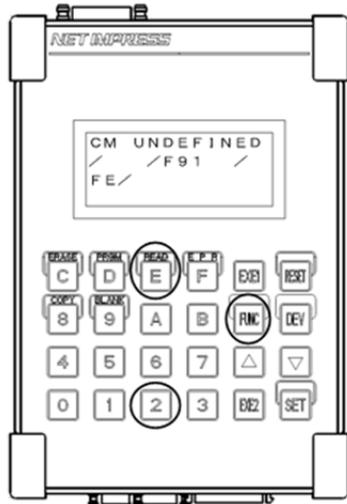
- ① プログラマ本体にコントロールモジュールと専用 AC アダプタを差し、電源を投入してください。



電源投入後、プログラマ本体の LCD が「NO COMPACT FLASH」という表示になる場合は、一度プログラマ本体の電源を OFF にして、コントロールモジュールが正しく差し込まれていることを確認してください。コントロールモジュールが挿しこまれていない場合、IP アドレスの設定はできません。

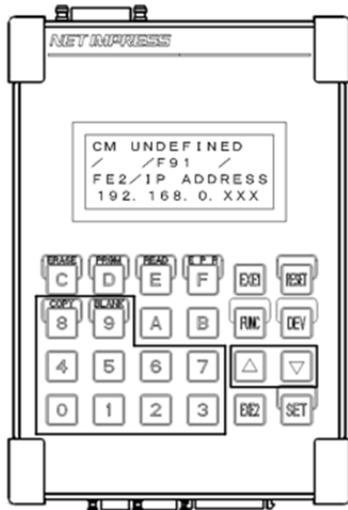


- ② 下記手順でプログラマ本体のキーを操作してください。



「FUNC」→「E」→「2」の順にキーを押して下さい。

- ③ 下記キーを操作して、プログラマ本体に設定する IP アドレスを入力してください。



0~9のキーを押してIPアドレスを設定して下さい。△▽キーでどの値を入力するか選択できます。

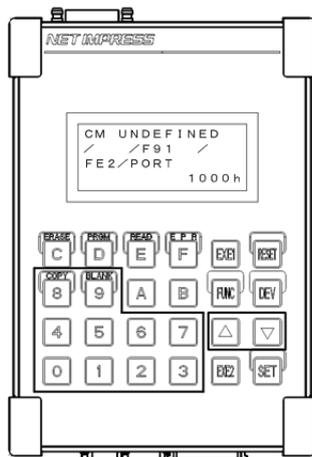


ホスト PC や同じネットワークに接続されている機器の IP アドレスと重複しないようご注意ください。

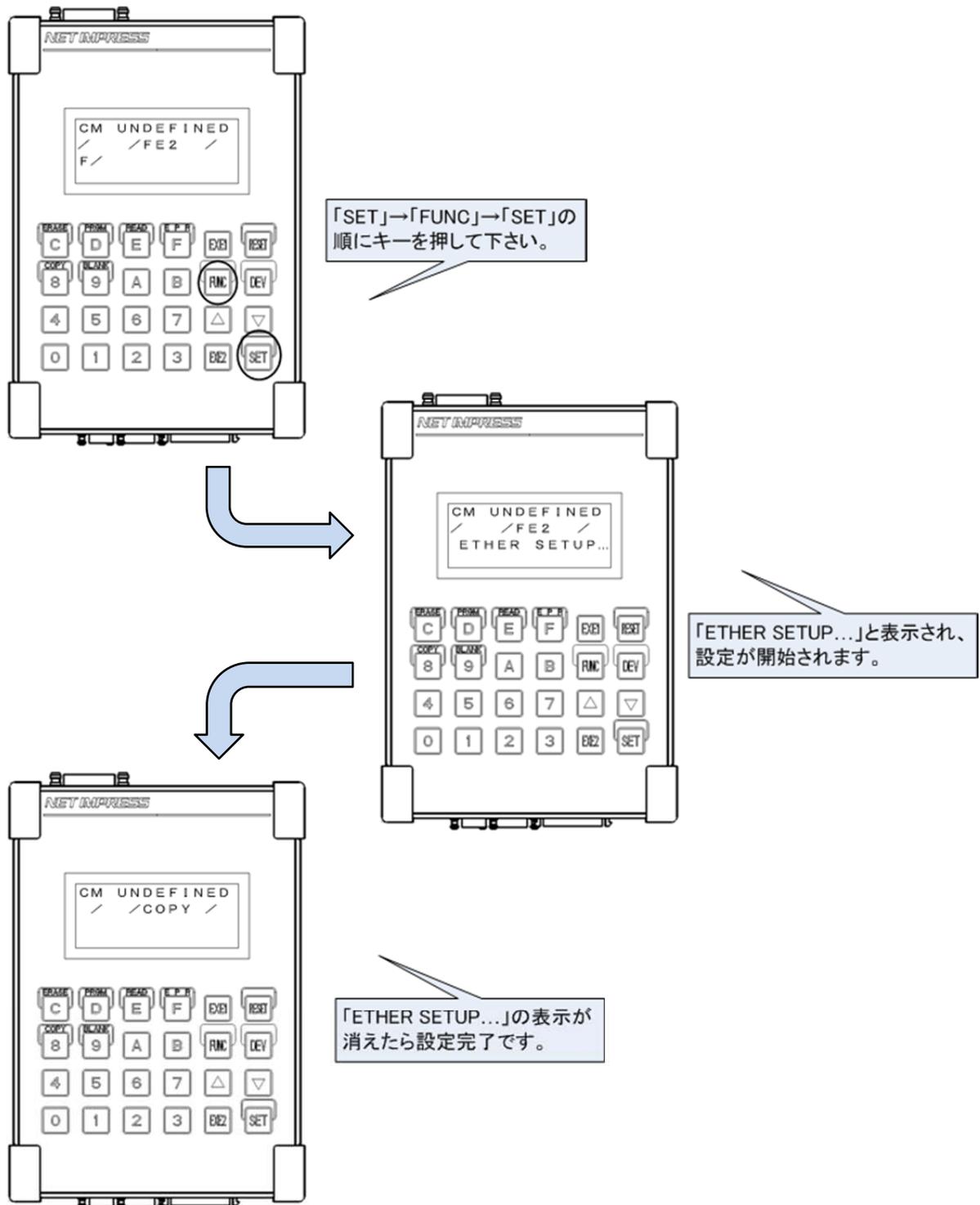


「FUNC」「E」「2」でポート番号の設定も可能です。(△▽キーで選択可能)

デフォルトのポート番号は、1000h となっています。必要に応じて変更してください。



- ④ 入力が完了したら、下記手順でプログラマ本体のキーを操作してください。
「ETHER SETUP...」のLCD表示が消えたら設定完了です。

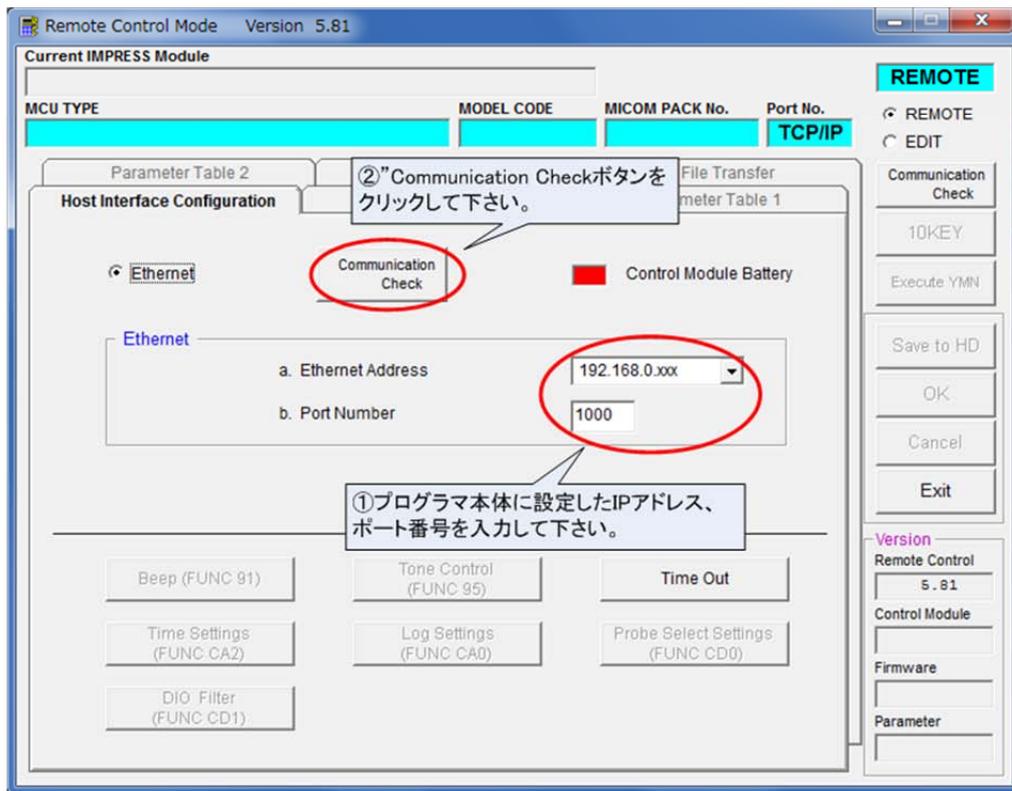


- ✓ 再度、「FUNC」→「E」→「2」の順にキーを押すと、現在設定されているIPアドレスを確認することができます。変更の必要がない場合は、「RESET」キーを押して設定を終了してください。

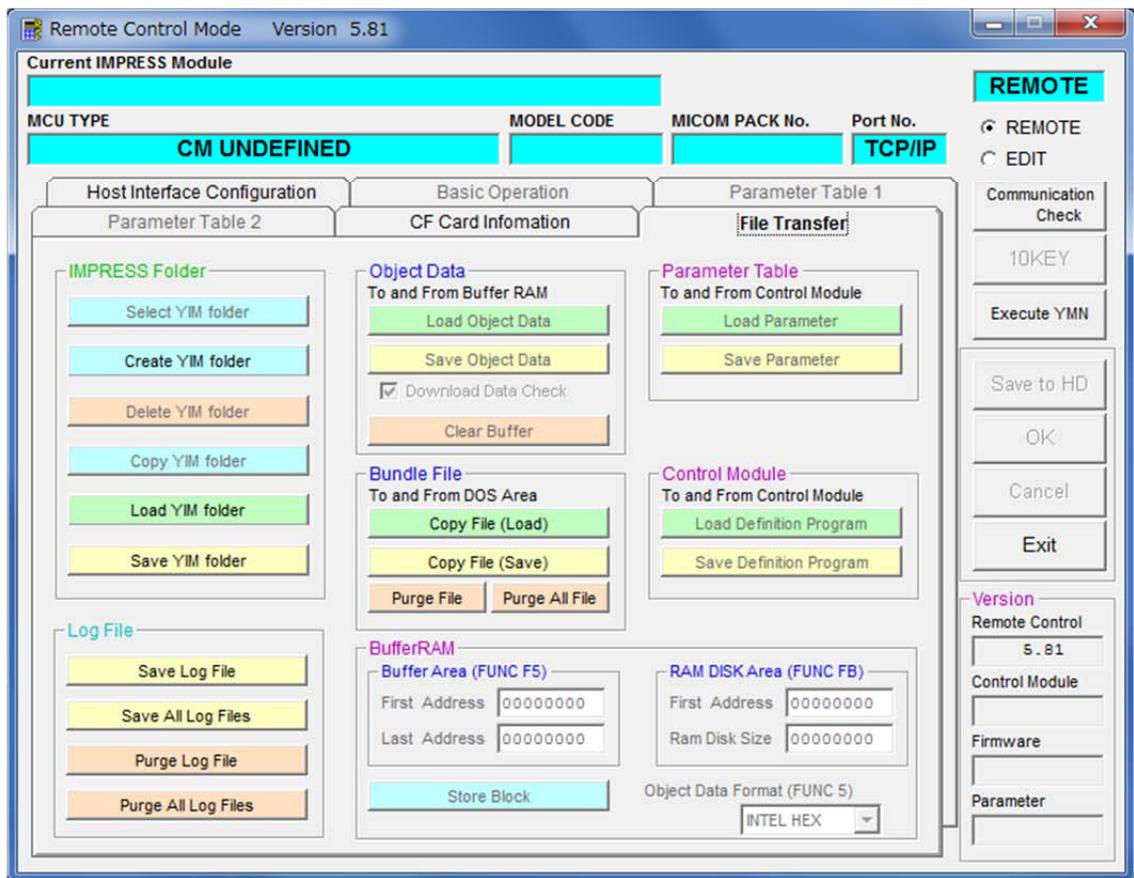
3.2.2. PC との接続 (AZ490:リモートコントローラ設定)

プログラマ本体を AZ490(リモートコントローラ)から制御する環境を設定します。

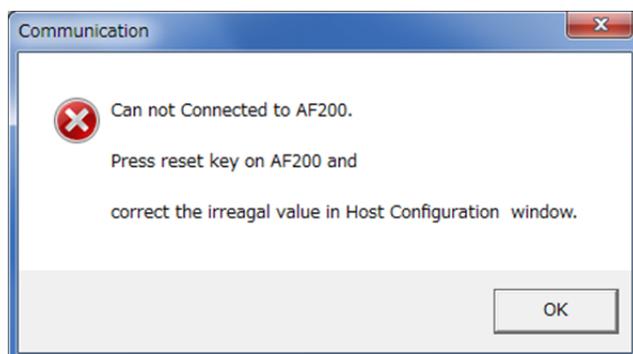
- ① Ethernet ケーブル(10BASE-T, 100BASE-TX)を使用して、ホスト PC とプログラマ本体を接続します。
(ネットワークハブを使用せずに、ホスト PC と 1 対 1 で接続する場合は、クロスケーブルをご使用ください)
- ② ホスト PC で、AZ490(リモートコントローラ)を起動します。
Windows [スタート]メニュー - <すべてのプログラム> - <DTS INSIGHT Tools> - <REMOTE>
- ③ 「Host Interface Configurations」 タブで、「**Ethernet**」を選択し、プログラマ本体に設定した IP アドレス、ポート番号を入力してください。
入力を終わったら、「**Communication Check**」 ボタンをクリックしてください。



- ④ ホスト PC とプログラマ本体間の Ethernet 通信が確立されると、以下の画面("File Transfer"タブ)が表示されます。以降、ホスト PC からプログラマ本体への制御が可能になります。



- !** 通信エラーにより、下記のダイアログウィンドウが表示された場合、ホスト PC とプログラマ本体の接続が完了していません。接続の状態や設定を再度ご確認ください。



3.2.3. Ethernet 接続時にエラーが発生した場合の確認事項

<p>Ethernet ケーブルはホスト PC、プログラマ本体に正しく接続されていますか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ホスト PC、および、プログラマ本体のコネクタに Ethernet ケーブルが間違いなく接続されている事を確認してください。Ethernet ハブを使用している場合は、ハブに接続されていることも確認してください。
<p>IP アドレスは正しく設定されていますか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラマ本体に設定した IP アドレスが正しく入力されている事を確認してください。 ➡ 本マニュアル「3.2.1 プログラマ本体の IP アドレス設定」を参照してください。 ● ホスト PC や同じネットワークに接続している機器に設定されている IP アドレスと重複していないことを確認してください。 ● ホスト PC が IP アドレスを自動的に取得する設定(DHCP)になっている場合、NETIMPRESS next と接続できません。必ず IP アドレスを設定してください。 ● サブネットマスクの設定に従った正しい IP アドレスをホスト PC 側、および NETIMPRESS next に設定して下さい。サブネットマスクが 255.255.255.0 の場合、上位 24 ビットはホスト PC と NETIMPRESS next で共通の値とする必要があります。
<p>ポート番号は正しく設定されていますか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラマ本体に設定したポート番号が正しく入力されている事を確認してください。特に設定を行ってない場合は、デフォルト値の "1000" を入力してください。 ➡ 本マニュアル「3.2.1 プログラマ本体の IP アドレス設定」を参照してください。
<p>サブネットマスクについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラマ本体のサブネットマスクのデフォルト値は 255.255.255.0 となっています。サブネットマスクは、ホスト PC 側の設定に合わせてください。サブネットマスクは「FUNC」「E」「4」にて変更いただけます。 ➡ 変更が必要な場合は、「NETIMPRESS next Instruction Manual」(NETIMPRESS_next_mnjnn.pdf)にある、「5.6.3. サブネットマスク設定」をご参照の上、設定してください。

4. プログラミング環境のセットアップ

4.1. ライセンスの追加

プログラミング環境の対象マイコンに対応した定義体を使用するためには、定義体ごとにコントロールモジュールにライセンスを追加する必要があります。

ライセンスの追加に必要なライセンスファイル(拡張子.YLC)は、ご購入時に、弊社から CD-R で提供しています。

ライセンスファイル

- 拡張子は.YLC です。
- 弊社から CD-R(ライセンス CD)で提供しています。

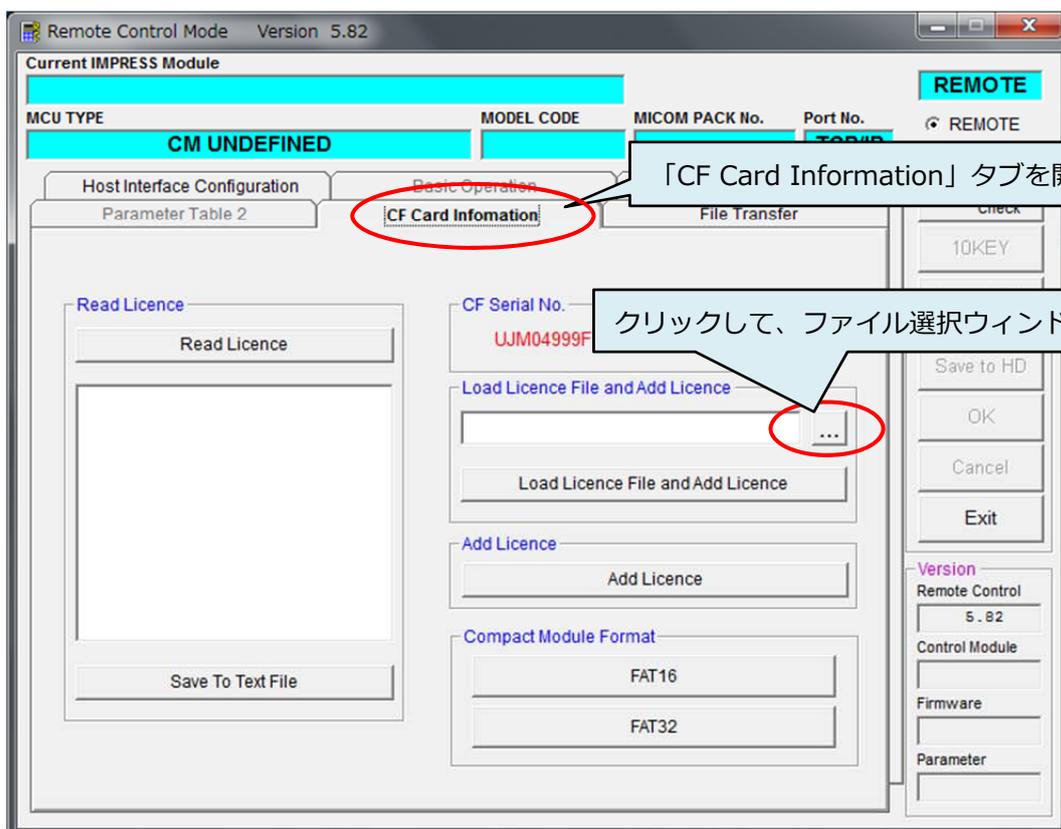
4.1.1. コントロールモジュールへのライセンス追加手順

- ① ライセンス CD で提供されたライセンスファイル(.YLC)を、ホスト PC のローカルフォルダにコピーします。

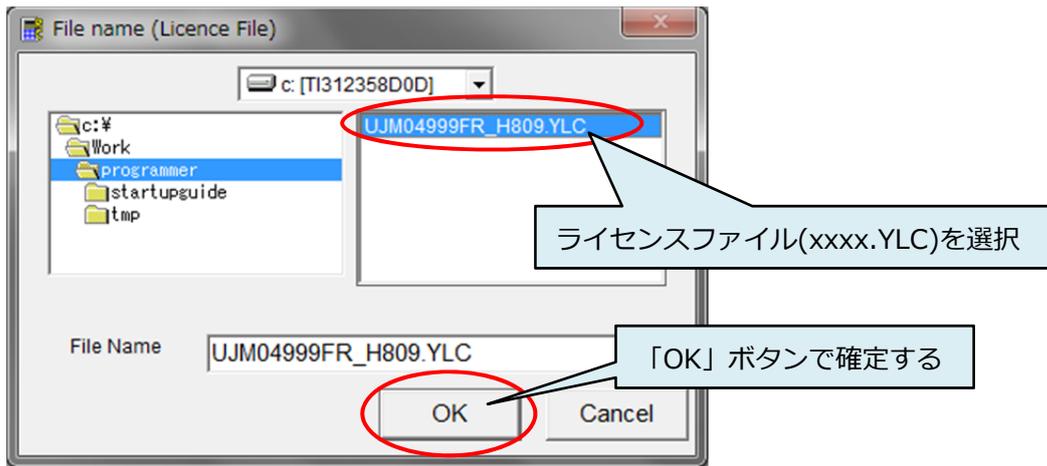


ライセンス CD 内のライセンスファイル(.YLC)を直接指定して、③の操作を行うとエラーになる場合があります。

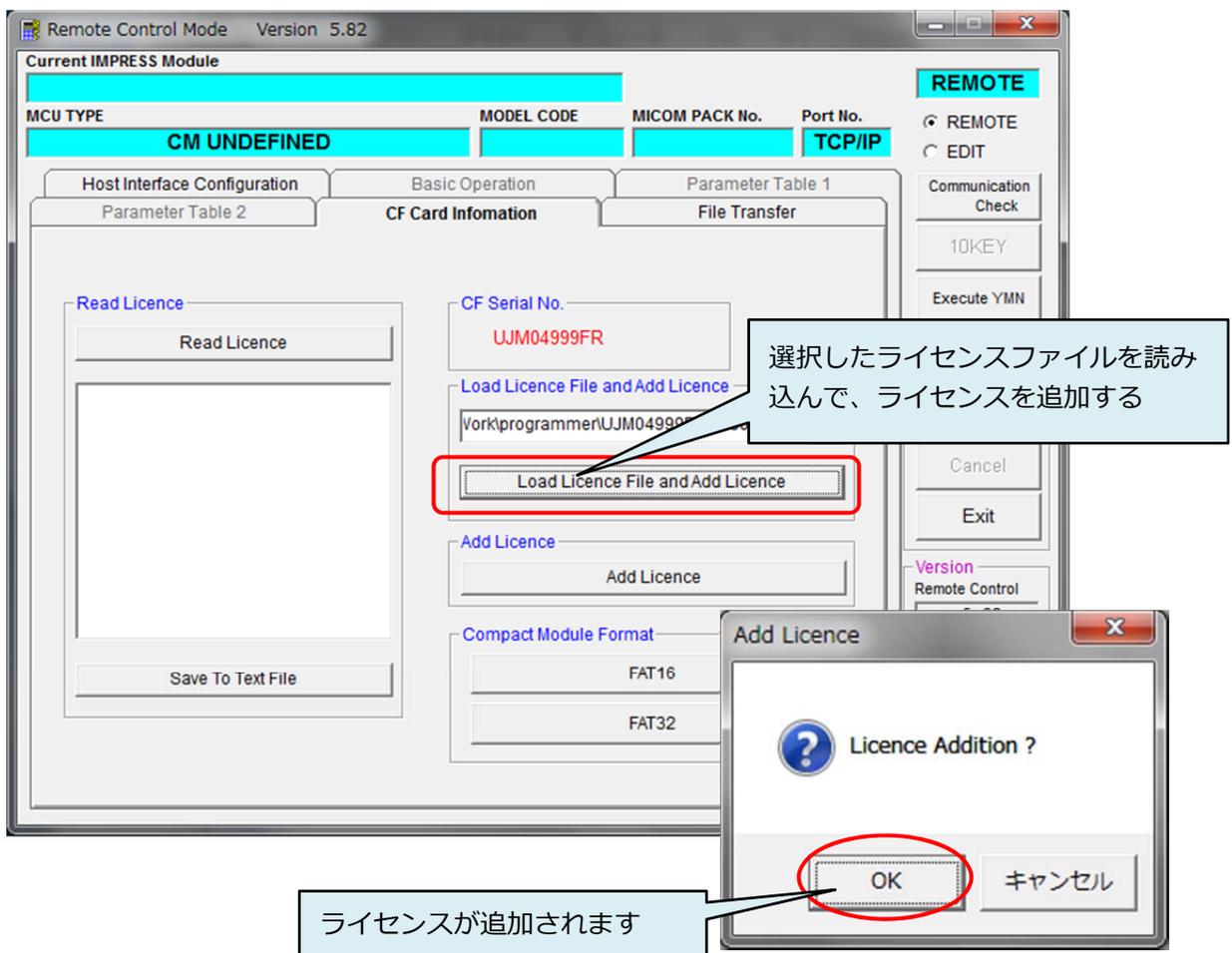
- ② AZ490(リモートコントローラ)を起動して、NETIMPRESS next に接続します。
- ③ 「CF Card Information」タブをクリックして開きます。
“Load Licence File and Add Licence”グループにある、ファイル選択ボタンより、ライセンスファイルを選択するウィンドウを開きます。



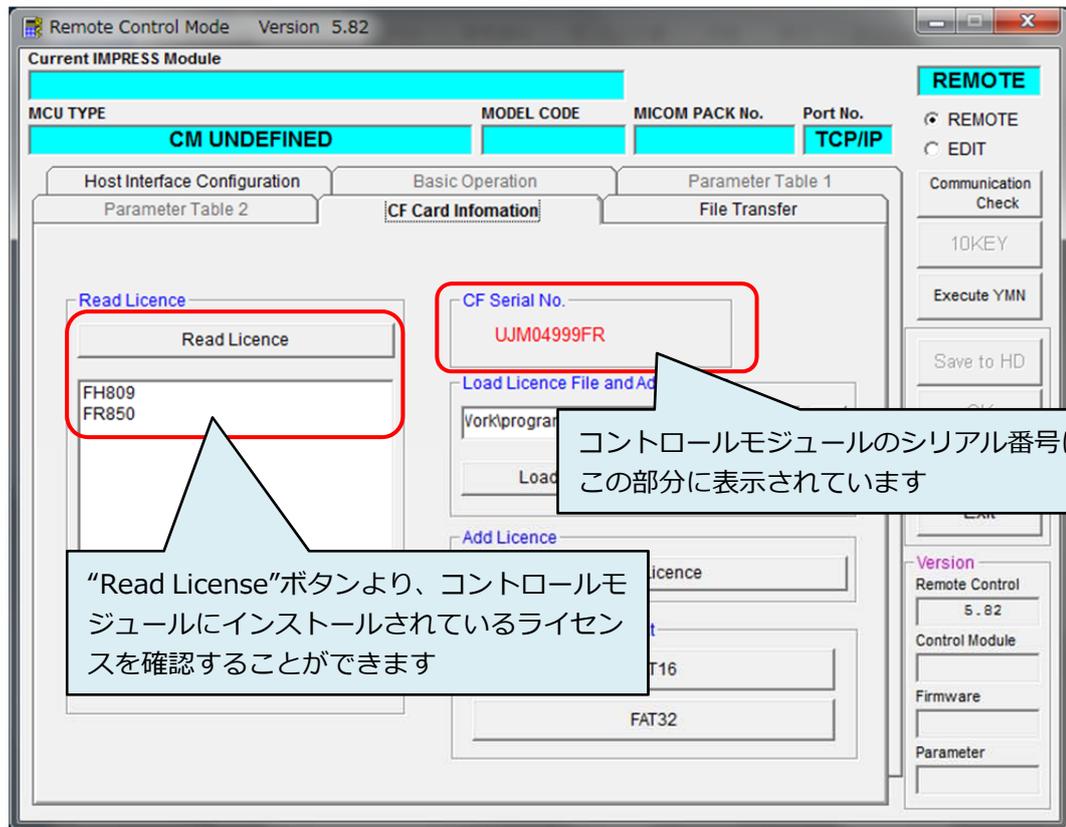
- ④ ①で準備したライセンスファイルを選択します。



- ⑤ “Load Licence File and Add Licence”ボタンをクリックすると、確認ダイアログが開きます。
「OK」ボタンを押すと、コントロールモジュールにライセンスが追加されます。



- !** ライセンス CD には、ライセンスを適用するコントロールモジュールのシリアル番号が印字されています。ライセンス CD に印字されているシリアル番号と、コントロールモジュールのシリアル番号が一致していない場合には、ライセンスを追加することができません。



- ✓** プログラム本体のスタンドアロン操作では、下記の手順で、使用可能なライセンスとコントロールモジュールのシリアル番号をご確認いただけます。
- ライセンス表示: 「FUNC」 → 「9」 → 「B」
 - コントロールモジュールのシリアル番号表示: 「FUNC」 → 「A」 → 「E」

4.2. YIM フォルダの作成

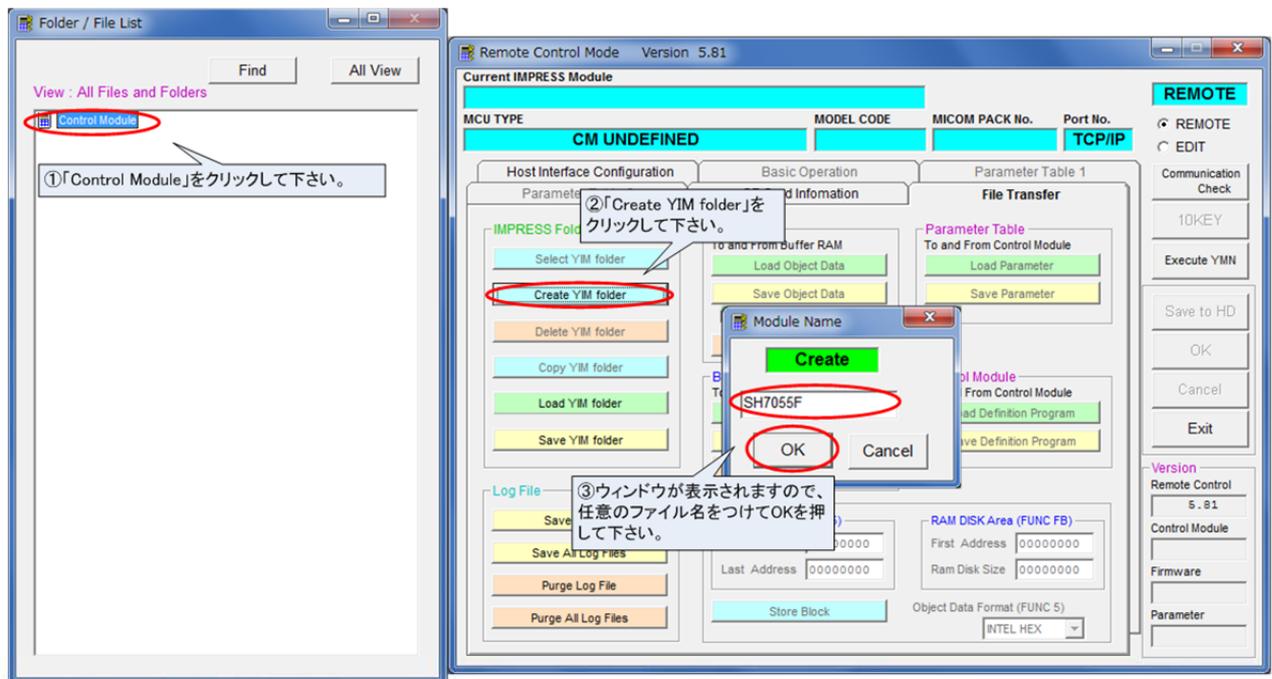
プログラミングオブジェクトとプログラミング環境の設定は、コントロールモジュールに配置する YIM フォルダ(拡張子.YIM)で管理します。

ライセンスを追加ができましたら、YIM フォルダを作成してプログラミング環境を設定します。

YIM フォルダ	<ul style="list-style-type: none"> ● 拡張子は.YIM です。 ● コントロールモジュールのプログラミング環境を管理します。
----------	--

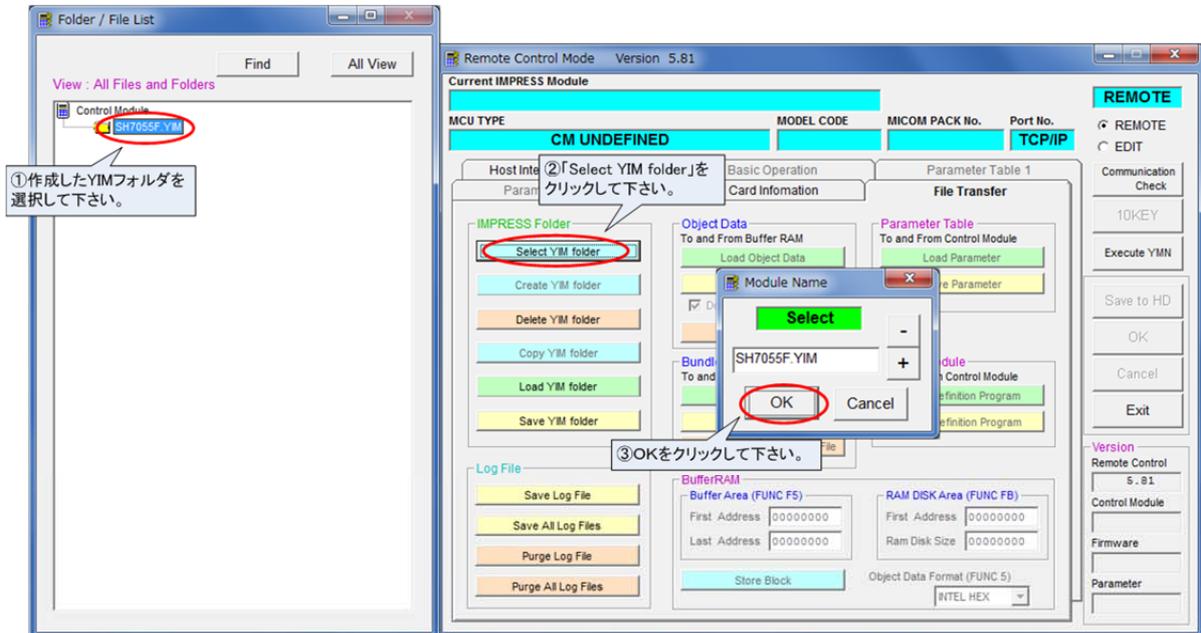
➡ YIM フォルダの詳細については、本マニュアルの「7. YIM フォルダ」をご参照ください。

- ① AZ490(リモートコントローラ)の Folder / File List ウィンドウにある、“Control Module”をクリックして選択します。
- ② メインウィンドウで、「File Transfer」タブをクリックして開きます。
“Create YIM Folder”ボタンをクリックすると、新規に作成する YIM フォルダ名を設定するウィンドウが開きますので、任意の名称を入力して「OK」ボタンを押します。



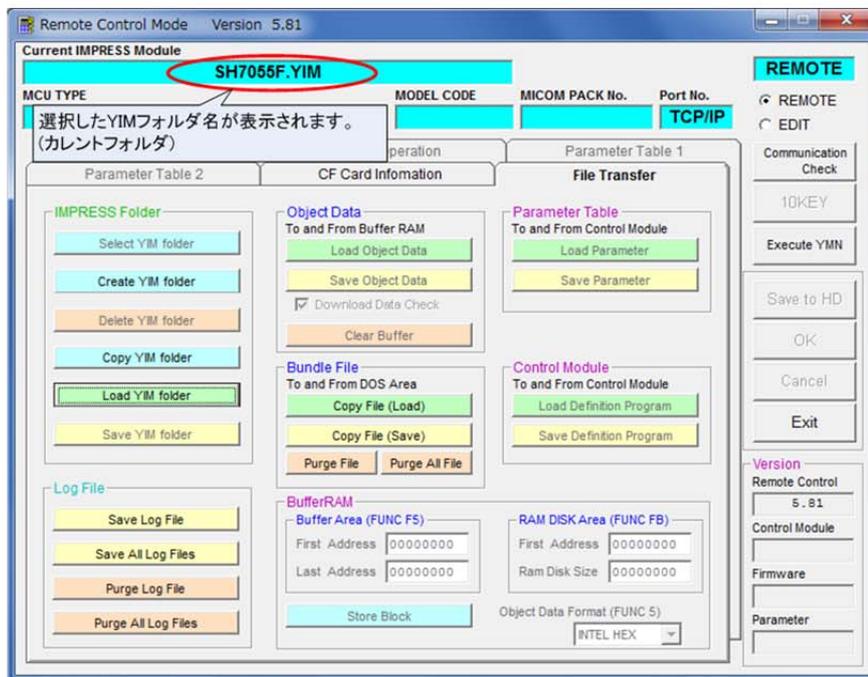
- ✓ Folder / File List ウィンドウ内を右クリックし、ポップアップメニューの「Create」を選択して YIM フォルダを作成することもできます。

- ③ YIM フォルダを作成すると、Folder / File List ウィンドウに、作成したフォルダが表示されます。作成した YIM フォルダを選択して、メインウィンドウの“Select YIM Folder”ボタンをクリックします。選択対象のフォルダ確認ウィンドウが表示されたら「OK」ボタンを押します。



- ✓ Folder / File List ウィンドウで、作成した YIM フォルダをダブルクリックすることによって、YIM フォルダを選択することもできます。

- ④ ③で選択した YIM フォルダがカレントフォルダとなり、AZ490(リモートコントローラ)最上部に YIM フォルダ名が表示されます。



カレントフォルダ

- 各種ファイルのロードや、デバイスファンクションの実行をおこなう YIM フォルダです。
- コントロールモジュールに各種設定ファイルのロードをおこなった場合はカレントフォルダに展開されます。

4.3. 各種設定ファイルのロード

カレントフォルダに、プログラミング環境設定ファイルをロードします。

定義体ファイル(拡張子.CM)、および、マイコンパックの各種ファイルをご用意ください。マイコンパックは、下記の弊社ホームページからダウンロードいただけます。

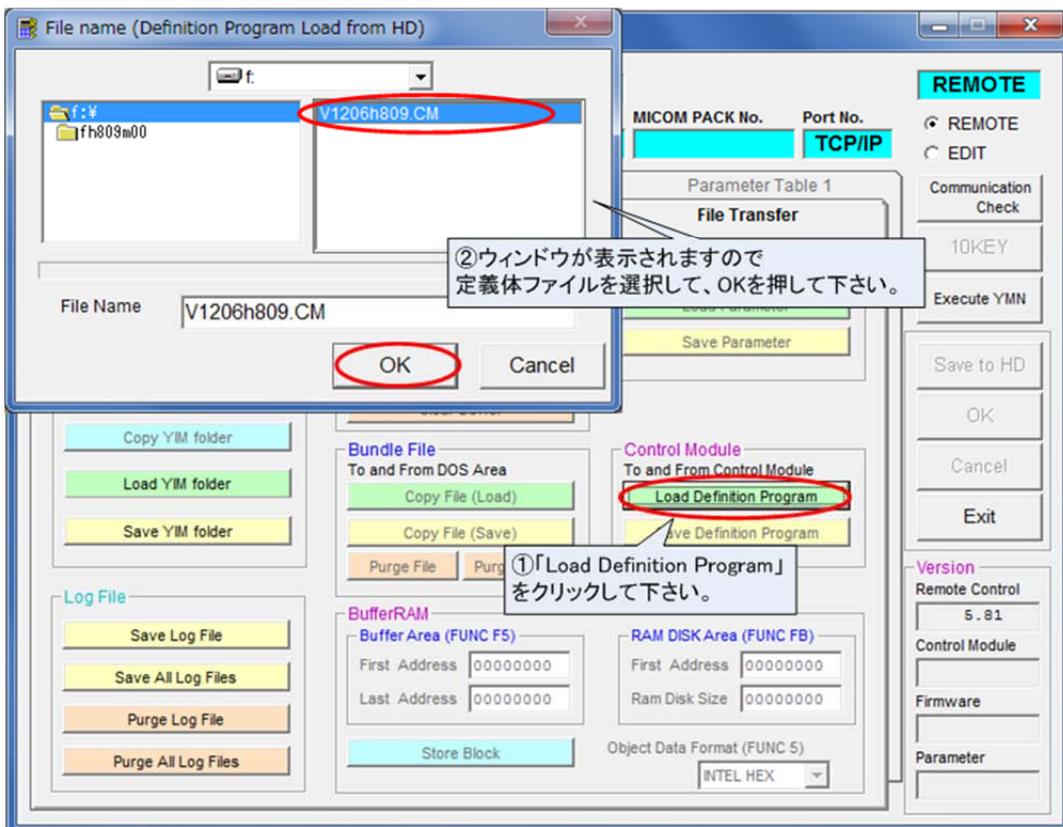
https://www.dts-insight.co.jp/support/support_netimpress/top/index.php?m=Search

マイコンパック	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種マイコンに対応したプログラミング環境設定用ファイルです。 ● 弊社ホームページよりダウンロード取得してください。 ● マイコンパックファイルは、自動解凍形式ファイル(EXE ファイル)になっています。ダウンロード後、Windows 上でファイルをダブルクリックして解凍してください。 ● マイコンパックは、複数のファイルで構成されています。パラメータファイル(拡張子.PRM)、マニュアル、書き込み制御プログラム(拡張子.BTP)、readme ファイルなどが含まれます。(マイコンによりファイル内容が異なります)
---------	--

4.3.1. 定義体ファイルのロード

「File Transter」タブにある、「Control Module」グループの「Load Definition Program」をクリックして、定義体ファイルをロードします。

定義体ファイル	<ul style="list-style-type: none"> ● 拡張子は.CM です。 ● ご購入時は、弊社から CD-R で提供しています。
---------	--

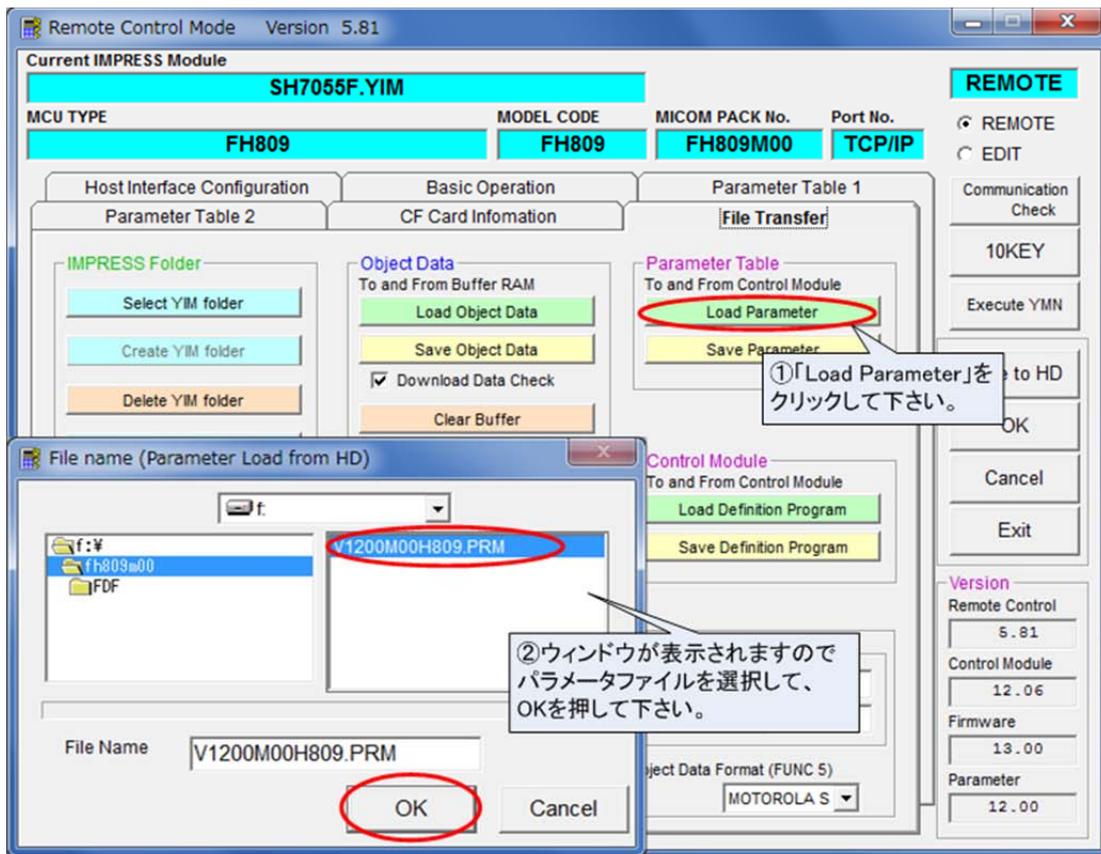


4.3.2. パラメータファイルのロード

「File Transfer」タブにある、「Parameter Table」グループの「Load Parameter」をクリックして、パラメータファイルをロードします。

パラメータファイル

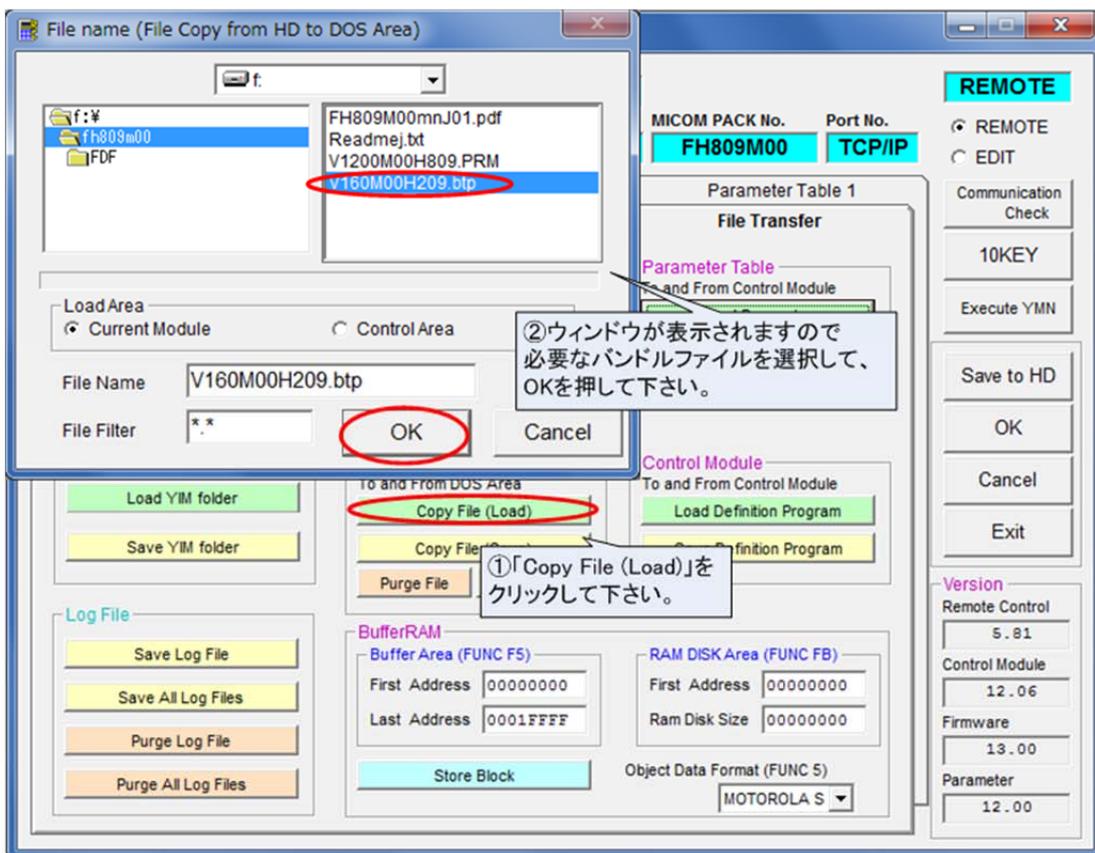
- 拡張子は.PRM です。
- マイコンパックに同梱されています。
- ターゲットシステムのデバイス情報を含むパラメータテーブルファイルです。



4.3.3. 各種バンドルファイルのロード

「File Transfer」タブにある、「Bundle File」グループの「Copy File(Load)」をクリックして、必要なバンドルファイルをロードします。代表的なファイルとしては、KEY ファイル、AMK ファイル、BTP ファイルなどがあります。

バンドルファイル	<ul style="list-style-type: none"> ● 定義体ファイル、パラメータファイル、プログラミングオブジェクトを除く、プログラミング環境を設定するファイルの総称です。 ● 弊社が提供するソフトウェアを使用して、お客様が作成したファイルも含まれます。(KEY ファイルなど)
KEY ファイル	<ul style="list-style-type: none"> ● 拡張子は.KEY です。 ● デバイスのセキュリティチェックをおこなうためのファイルです。 ● AZ481(KEY ファイルジェネレータ)で作成します。 <p>➡ KEY ファイルの詳細、および作成方法については、本マニュアルの「8. KEY ファイル」をご参照ください。</p>
AMK ファイル	<ul style="list-style-type: none"> ● 拡張子は.AMK です。 ● マイコンパックに同梱されています。 ● デバイスのセキュリティチェック用マスターキーファイルです。
BTP ファイル	<ul style="list-style-type: none"> ● 拡張子は.BTP です。 ● マイコンパックに同梱されています。 ● デバイスの書き込み制御をおこなうプログラムファイルです。

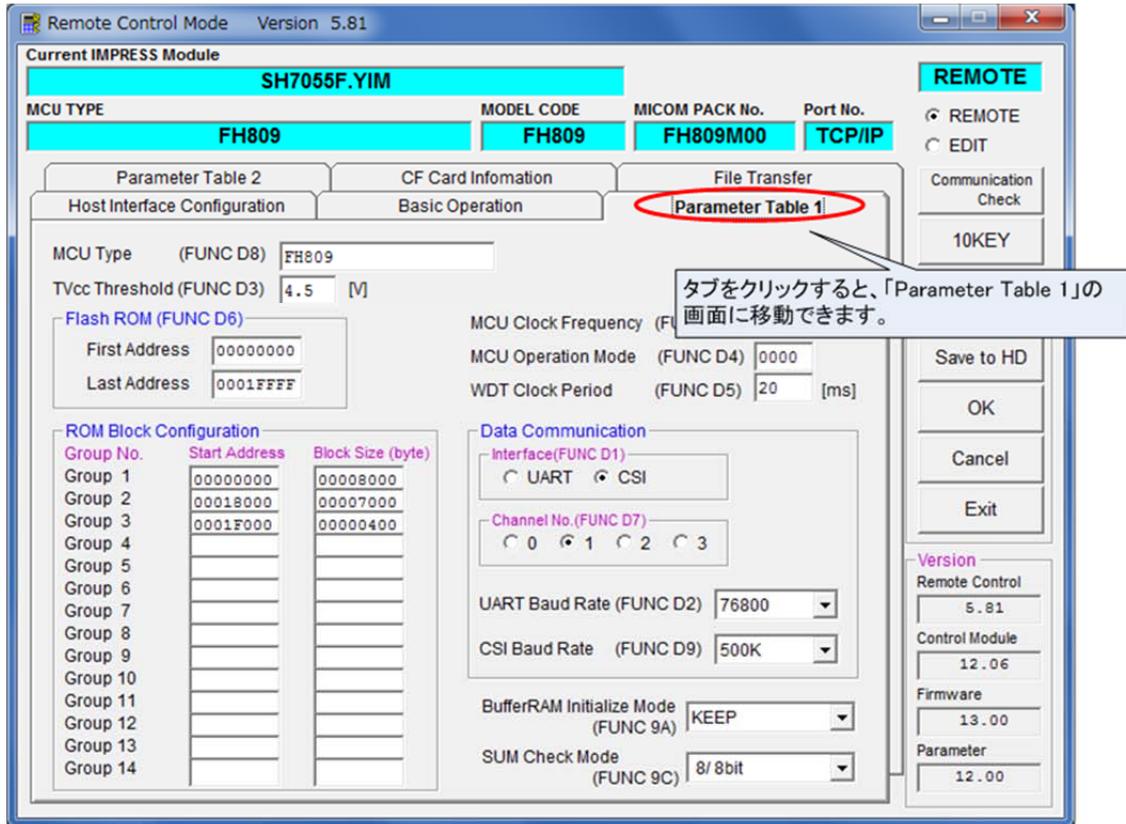


4.3.4. パラメータの設定

「4.3.2. パラメータファイルのロード」でロードしたパラメータファイルの設定は、代表的なパラメータを弊社で初期設定したものです。お客様のターゲットシステムに合わせて、変更が必要な場合があります。

各種パラメータの設定は、「Parameter Table1」タブ画面でおこないます。

主に、マイコンの動作クロック周波数、ターゲット電源検出レベル(TVcc しきい値)、通信ボーレートなどの設定などをおこないます。



パラメータテーブルの詳細につきましては、お使いになるコントロールモジュールのマニュアル、および、マイコンパックのマニュアルをご確認ください。

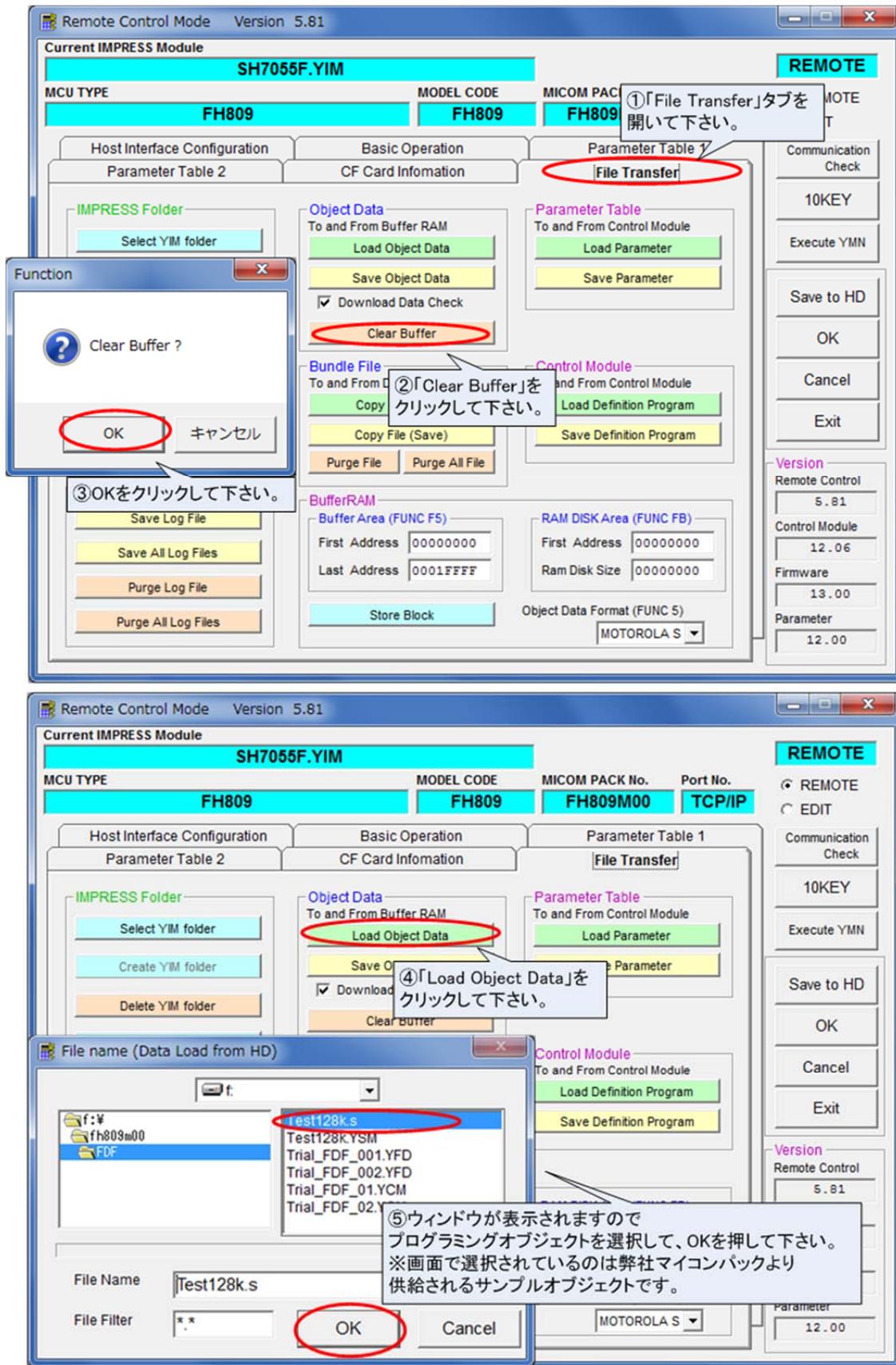
4.3.5. オブジェクトファイル(書き込みファイル)のロード

「File Transfer」タブ画面に移動し、“Object Data”グループにある、“Clear Buffer”をクリックします。バッファクリアの確認画面が表示されたら、OK をクリックします。

次に、“Object Data”グループの“Load Object Data”をクリックし、マイコンへの書き込みを行うオブジェクトファイルをロードします。ロード操作によって、コントロールモジュール内のバッファメモリにデータが展開されます。

バッファメモリ

- デバイスへ書き込むデータを保存する場所です。
- ロードされたオブジェクトファイルは、バイナリデータに変換され、バッファメモリに保存されます。
- バッファメモリは、コントロールモジュール上に存在するため、プログラムの電源を OFF にしてもデータが保持されます。



以上でプログラミング環境の設定は終了です。

4.4. ターゲットシステムとの接続

本章では、NETIMPRESS next とターゲットシステムの代表的な接続例を示します。



お客様のプログラミング環境によって、NETIMPRESS next との接続方法が異なります。

ご使用になるコントロールモジュール、マイコンパック、アダプタのマニュアルを必ずご確認ください。

各種コントロールモジュール、マイコンパックのマニュアルは、下記の弊社ホームページ URL からダウンロードいただけます。

https://www.dts-insight.co.jp/support/support_netimpress/top/index.php?m=Search

各種ターゲットプローブ、アダプタのハードウェアマニュアルは、下記の弊社ホームページ URL からダウンロードいただけます。

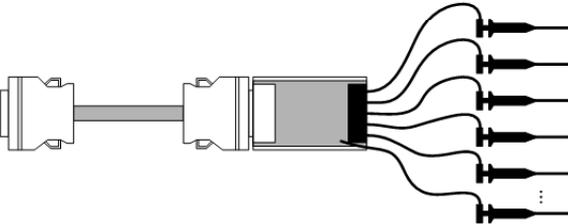
https://www.dts-insight.co.jp/support/support_netimpress/top/index.php?m=Hardware

4.4.1. ターゲットプローブを使用して接続する場合

- プローブの種類

お客様のターゲットボードに適したターゲットプローブを使用して、プログラマ本体と接続してください。

- 結線

AZ410	<p>ターゲットボード上に標準コネクタ(DX10-28S(ヒロセ電機))相当のコネクタを実装して接続する場合に使用します。</p> 
AZ411, AZ413	<p>AZ411 は、先端がリード線とテストクリップになっています。 AZ413 は、先端がリード線と未処理になっています。 ターゲットボード上にコネクタを実装できず、テストピンに接続する場合に使用します。</p> 
AZ412	<p>AZ410 のターゲットボード側の先端が未処理になっています。お客様が自由にコネクタを結線して使用できます。</p> 
AZ415	<p>AZ415 は CAN 通信をご使用の際にご使用いただきます。D-SUB9 ピンから先につながるケーブルはお客様でご用意下さい。</p> 

ご使用になるマイコンパックのマニュアルに記載されている、「ターゲットシステムとの接続と専用コネクタ」をご確認頂き、ターゲットプローブとターゲットシステムの結線をおこなってください。

マイコンパック FH820M23(ルネサスエレクトロニクス社製 SH72533 対応)の例:

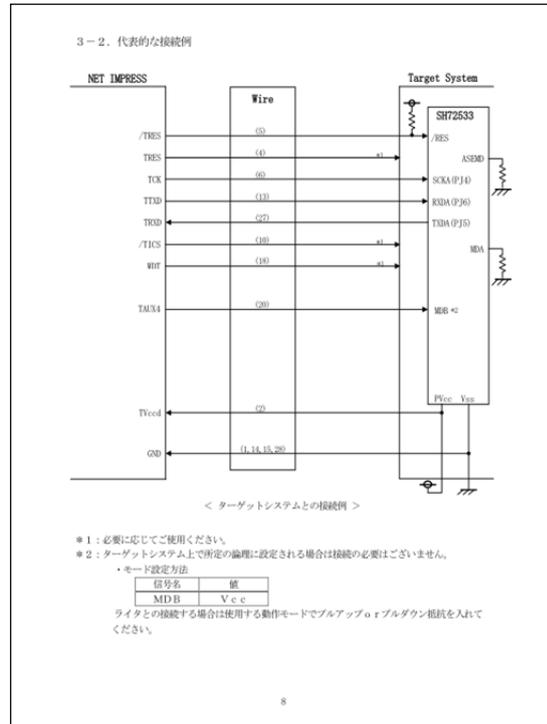
3. ターゲットシステムとの接続と専用コネクタ

3-1. 信号一覧表

マイコン信号名	NET IMPRESS 標準信号名			マイコン信号名
GND	GND	(15)	(1)	GND
	Tpp1	16	(2)	Vcc
	Tpp2	17	3	Vcc
ターゲットへ出力信号	WDT	(18)	(4)	TRES 正論理/TRES
	TAUX3(TppIC)	19	(5)	/TRES
機能	TAUX4(TppOC)	(20)	(6)	TCK SCK_A(PJ4)
	Reserved	21	7	Reserved
	Reserved	22	8	Reserved
	TAUX	23	9	TAUX2(TBO)
	THSY	24	(10)	/TICS 497出力用信号
	TIO	25	11	/TOE
	TVccs	26	12	TMOE
TxD_A(PJ5)	TRXD	(27)	(13)	TTXD RxD_A(PJ4)
GND	GND	(28)	(14)	GND

ターゲットプローブ信号表 (FH820M23)

○は必ず接続して頂く信号です。
 ()は、必要な時のみ接続してください。
 注意: ○も () も印のない信号線は絶対にターゲットシステムの回路には接続しないでください。



● 接続

「ターゲットプローブの種類」と「結線」を確認し、プログラマ本体とターゲットシステムを接続します。



電源の投入/遮断順序にご注意ください。

- 電源投入時・・・プログラマ本体の電源が ON の状態で、ターゲットシステムの電源を ON。
- 電源遮断時・・・ターゲットシステムの電源を OFF にしたあとに、プログラマの電源を OFF。

4.4.2. アダプタを使用して接続する場合

プログラミング環境の通信インターフェースによっては、オプションのアダプタを介して NETIMPRESS next とターゲットシステムを接続する必要があります。

● アダプタの例

お客様の通信インターフェースに適したアダプタを使用して、プログラマ本体と接続してください。

AZ414, AZ415, AZ416(CAN インターフェース)、AZ473(JTAG インターフェース)、AZ442(SWD インターフェース)、など。

● 結線の確認

ご使用になるマイコンパックのマニュアルに記載されている、「ターゲットシステムとの接続と専用コネクタ」をご確認頂き、アダプタの入出力信号とターゲットシステムの結線をおこなってください。

マイコンパック FM818M07(フリースケールセミコンダクタ社 MPC5643L 対応)の例:
AZ473(JTAG アダプタ)使用して接続します。

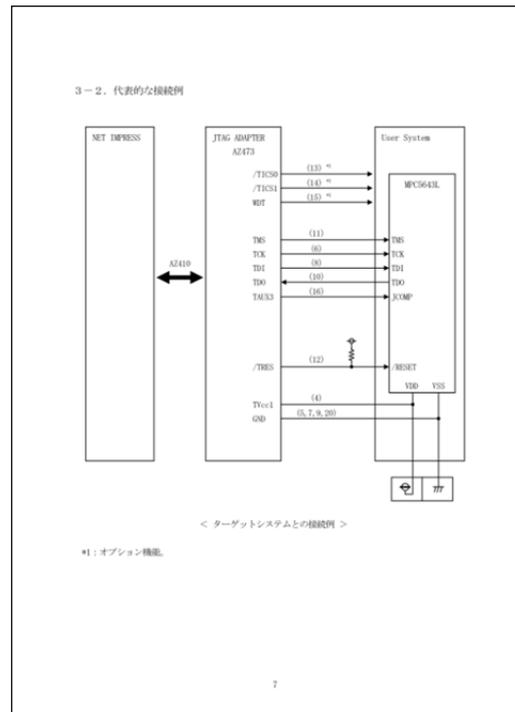
3. ターゲットシステムとの接続と専用コネクタ

3-1. 信号一覧表
本マイコンパックをご利用頂いた場合のターゲットプロブコネクタ端子の信号表を示します。

マイコン信号名	AZ473の信号名				マイコン信号名
TMS	TMS	(11)	1	TVpp1	
/RESET	/TRES	(12)	2	VCC	
	/TICS0	(13)	3	TMODE	
	/TICS1	(14)	4	TVCC1	VDDE
	WDT	(15)	5	GND	VSS
JCOMP	TAUX3	(16)	6	TCK	TCK
	TAUX4	17	7	GND	VSS
	N.C	18	8	TD1	TD1
	/TSEQ	19	9	GND	VSS
VSS	GND	(20)	10	TDO	TDO

ターゲットプロブ信号表 (MPC5643L)

○ は、必ず接続いただく信号線です。
() の信号についても出力制御を行います。接続が必要な時のみ接続してください。
注意：○も()もついていない信号線は、ターゲットに絶対接続しないで下さい。



● 接続

「アダプタの種類」と「結線」を確認し、プログラマ本体、ターゲットプローブ、アダプタ、ターゲットシステムを接続します。



電源の投入/遮断順序にご注意ください。

- 電源投入時・・・プログラマ本体の電源が ON の状態で、ターゲットシステムの電源を ON。
- 電源遮断時・・・ターゲットシステムの電源を OFF にしたあとに、プログラマの電源を OFF。

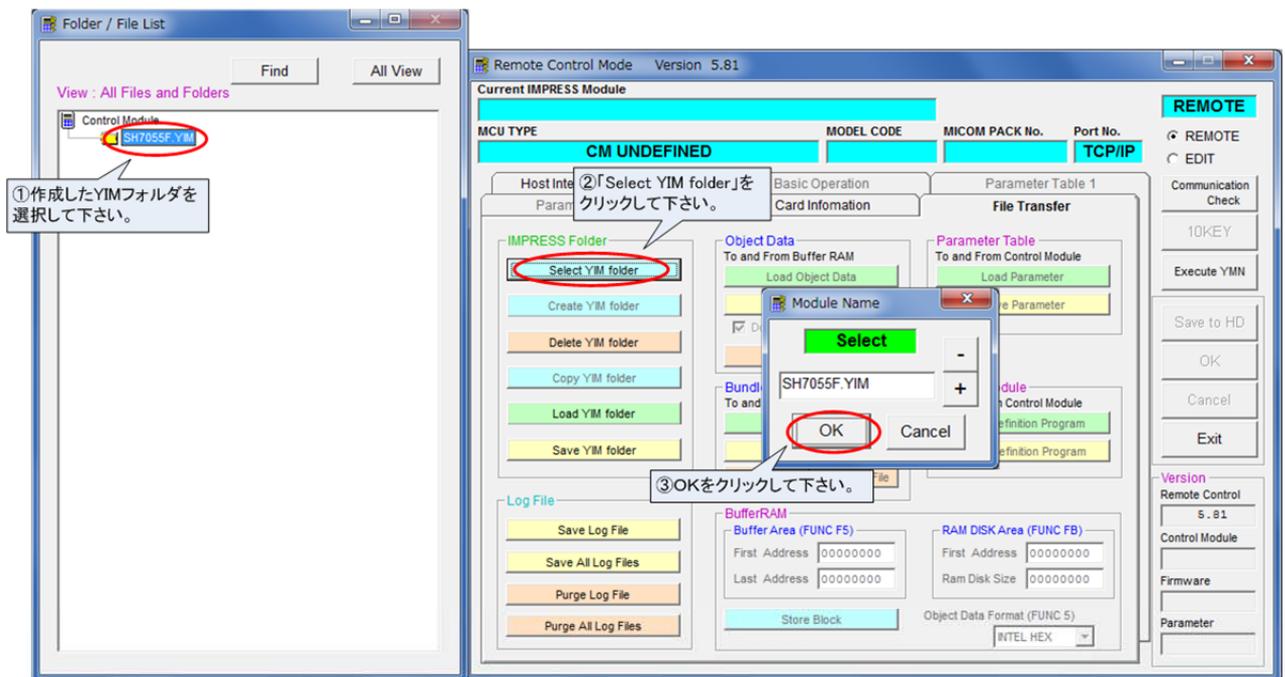
5. プログラミング実行

この章では、ターゲットシステムへのプログラミング実行手順について説明します。

- ① プログラマ本体と、ターゲットシステムを接続します。
正しく接続されていることを確認後、プログラマ本体の電源を投入します。
- ② ホスト PC とプログラマ本体を Ethernet ケーブルで接続してから、AZ490(リモートコントローラ)を起動します。
AZ490 の設定が完了していれば、自動的に“Communication Check”が行われ、ホスト PC とプログラマが接続されます。

➡ 接続できない場合には、「3.2 Ethernet 接続設定」をご参照の上、設定を再度ご確認ください。

- ③ YIM フォルダの選択
プログラミング環境を設定した YIM フォルダを選択し、“Select” → “OK”をクリックしてください。



- ④ ターゲットシステムの電源を投入します。



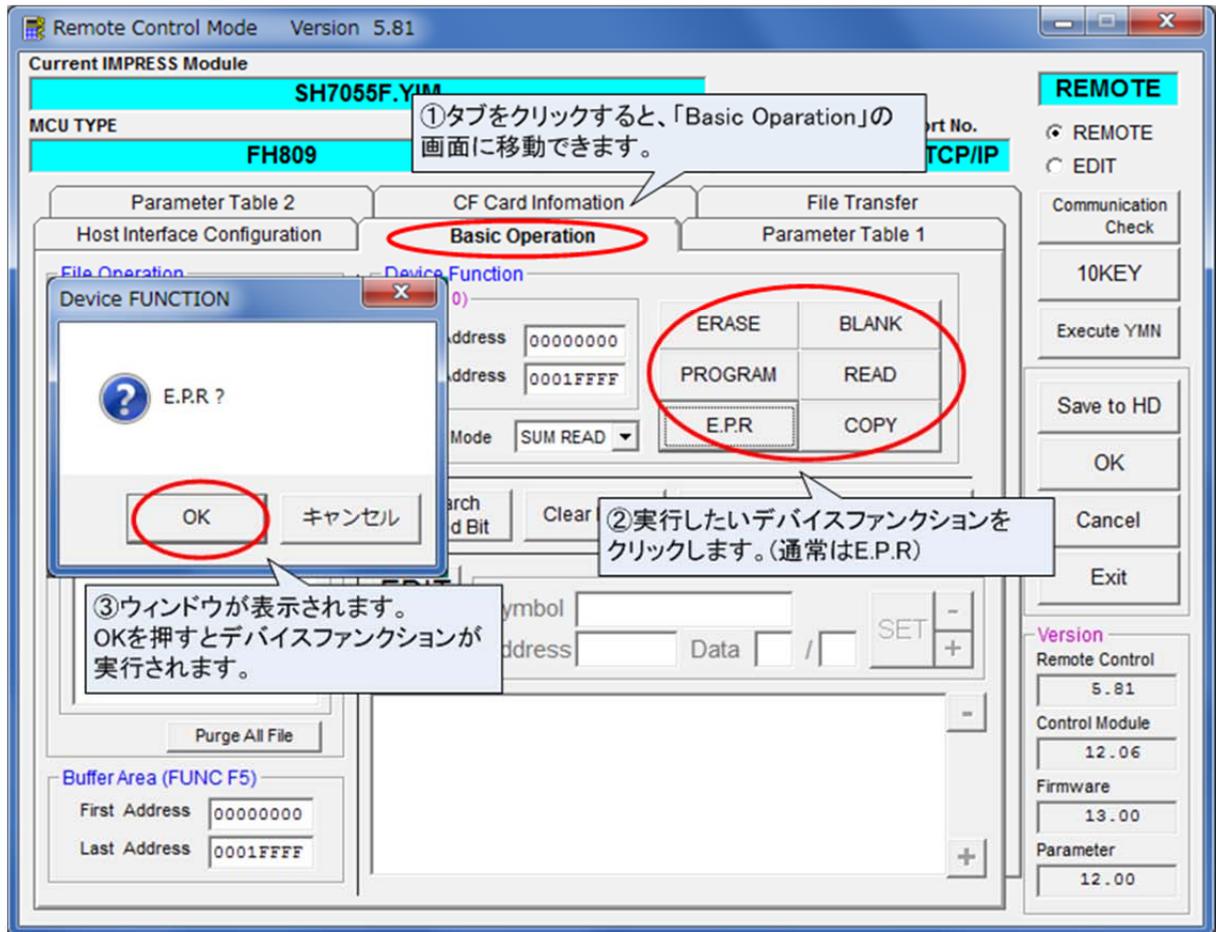
電源の投入/遮断順序にご注意ください。

- 電源投入時・・・プログラマ本体の電源が ON の状態で、ターゲットシステムの電源を ON。
- 電源遮断時・・・ターゲットシステムの電源を OFF にしたあとに、プログラマの電源を OFF。

⑤ プログラミングの実行

「Basic Operation」タブの画面へ移動し、デバイスファンクションを実行し、プログラミングをおこないます。通常は、E.P.R.(Erase → Program → Read Verify)を実行します。

! お使いになるコントロールモジュールによって、デバイスファンクション機能の内容が異なる場合があります。各デバイスファンクション機能の詳細については、ご使用になるコントロールモジュールのマニュアルをご参照ください。



⑥ プログラミングが完了したら、AZ490(リモートコントローラ)の右上にあるクローズボックスをクリックして、プログラムを終了します。

⑦ ターゲットシステムとプログラマ本体の電源を遮断します。

! 電源の投入/遮断順序にご注意ください。

- 電源投入時・・・プログラマ本体の電源が ON の状態で、ターゲットシステムの電源を ON。
- 電源遮断時・・・ターゲットシステムの電源を OFF にしたあとに、プログラマの電源を OFF。

6. AZ490(リモートコントローラ)画面の説明

AZ490(リモートコントローラ)をご利用いただくことによって、各種ファイルのダウンロード、プログラミング環境設定、デバイスファクションの実行をおこなうことができます。

AZ490 は 6 つのタブ画面で構成されています。

- Host interface Configuration . . . プログラマとの接続画面
- Basic Operation . . . デバイスファクション実行画面
- Parameter Table 1 . . . パラメータ設定画面
- Parameter Table 2 . . . パラメータ設定画面(非公開部分)
- CF Card Information . . . CF カード情報設定画面
- File Transfer . . . ファイル転送画面

本マニュアルでは、このうちもっとも利用機会の多い、

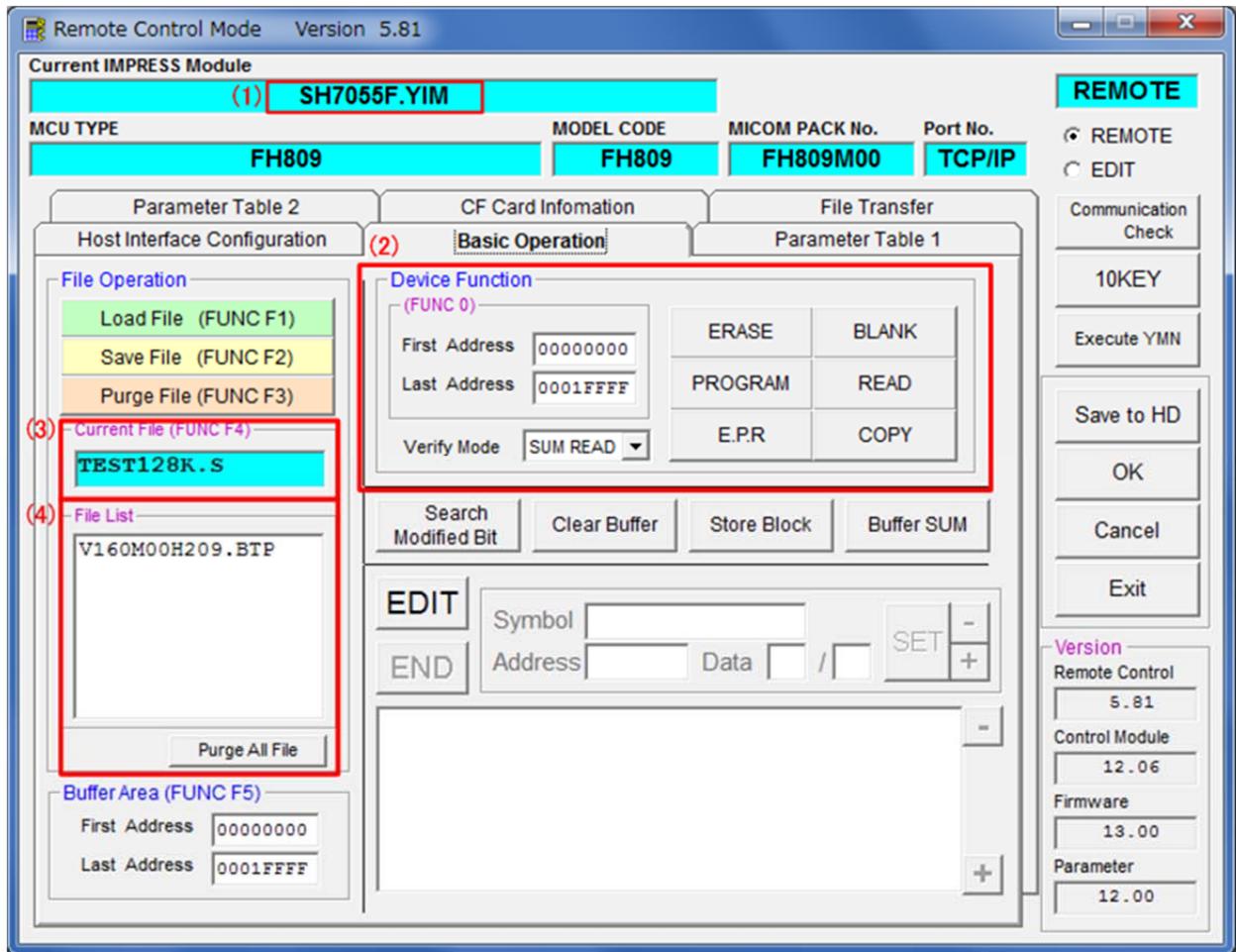
Basic Operation、Parameter Table 1、File Transfer

について、下記に説明します。

- ➡ そのほかの機能や、操作の詳細については、
「AZ490 NETIMPRESS シリーズ用リモートコントローラ インストラクションマニュアル」
(AZ490mn]nn.pdf)
をご確認ください。(nn の部分は、マニュアルの版数を示しています)

6.1. Basic Operation(デバイスファンクション実行画面)

Basic Operation 画面では、主にデバイスファンクションの実行をおこないます。



(1) Current IMPRESS Module

現在選択されている YIM フォルダ名を表示します。(参考画面では SH7055F.YIM が選択されています)

(2) Device Function

デバイスファンクションを実行します。

(3) Current File

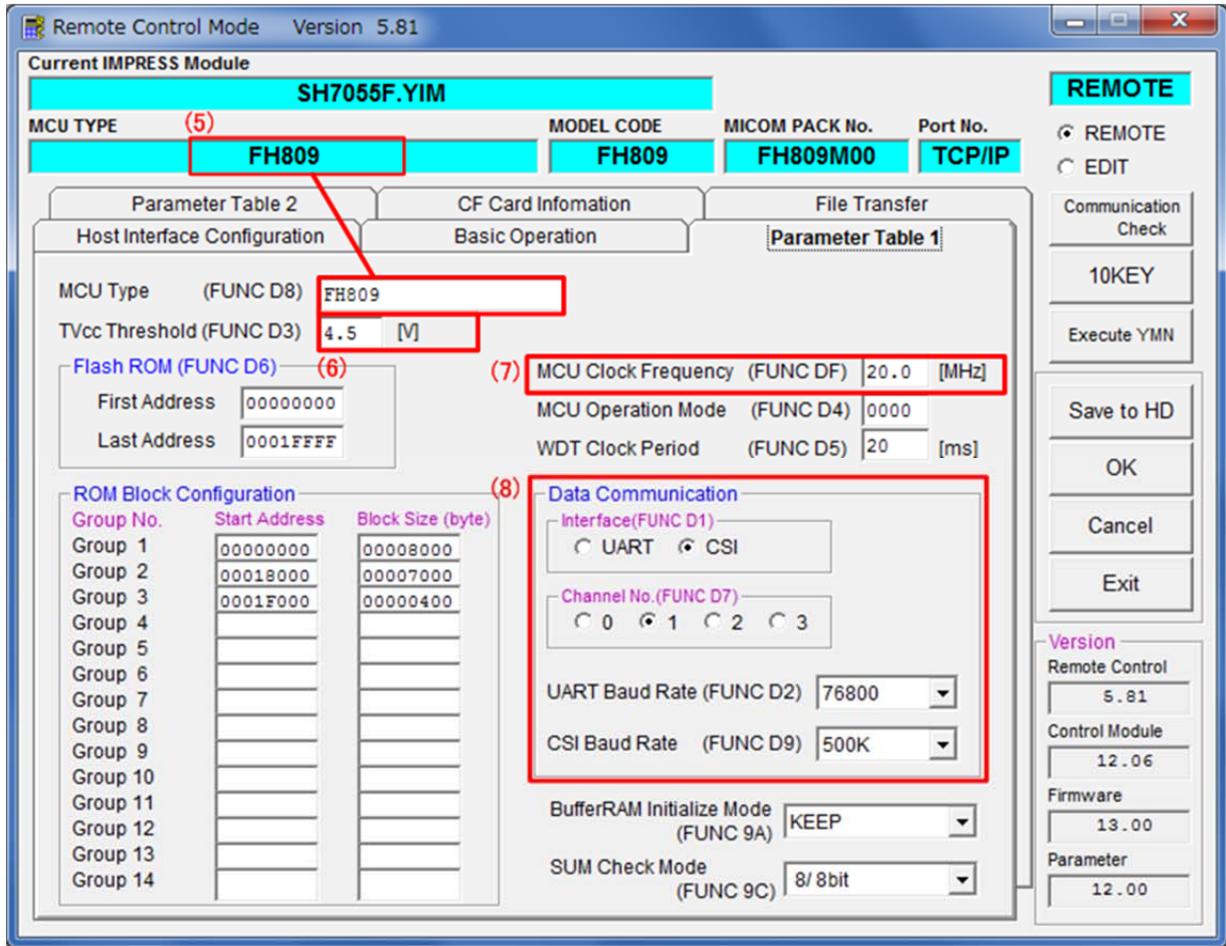
現在、バッファメモリにロードされているオブジェクトファイル名です。「File Transfer」タブにある Object Data To and From Buffer RAM の画面で、Load Object Data によって指定されたオブジェクトのファイル名を表示します。

(4) File list

現在選択されている YIM フォルダ内にあるバンドルファイルなどを表示します。「File Transfer」タブの Bundle File To and From DOS Area の画面で Copy File (Load) で指定されたファイルが表示されません。

6.2. Parameter Table 1(パラメータ設定画面)

Parameter Table 1 画面では、お客様の環境に合わせてプログラミング設定をおこないます。



(5) MCU TYPE

初期設定では、デバイス名称などを表示します。ユーザーによる変更も可能です。このMCU TYPEで設定された名称がプログラマ本体のLCD最上部に表示されます。(参考画面ではFH809が表示されています)

(6) TVcc Threshold

NETIMPRESS nextは、デバイスファンクション実行時に、この設定をしきい値として、ターゲットに電源が投入されていることをチェックします。通常は、ターゲット電源電圧の90%程度の値を設定します。

(7) MCU Clock Frequency

ターゲットの動作クロック周波数を設定します。

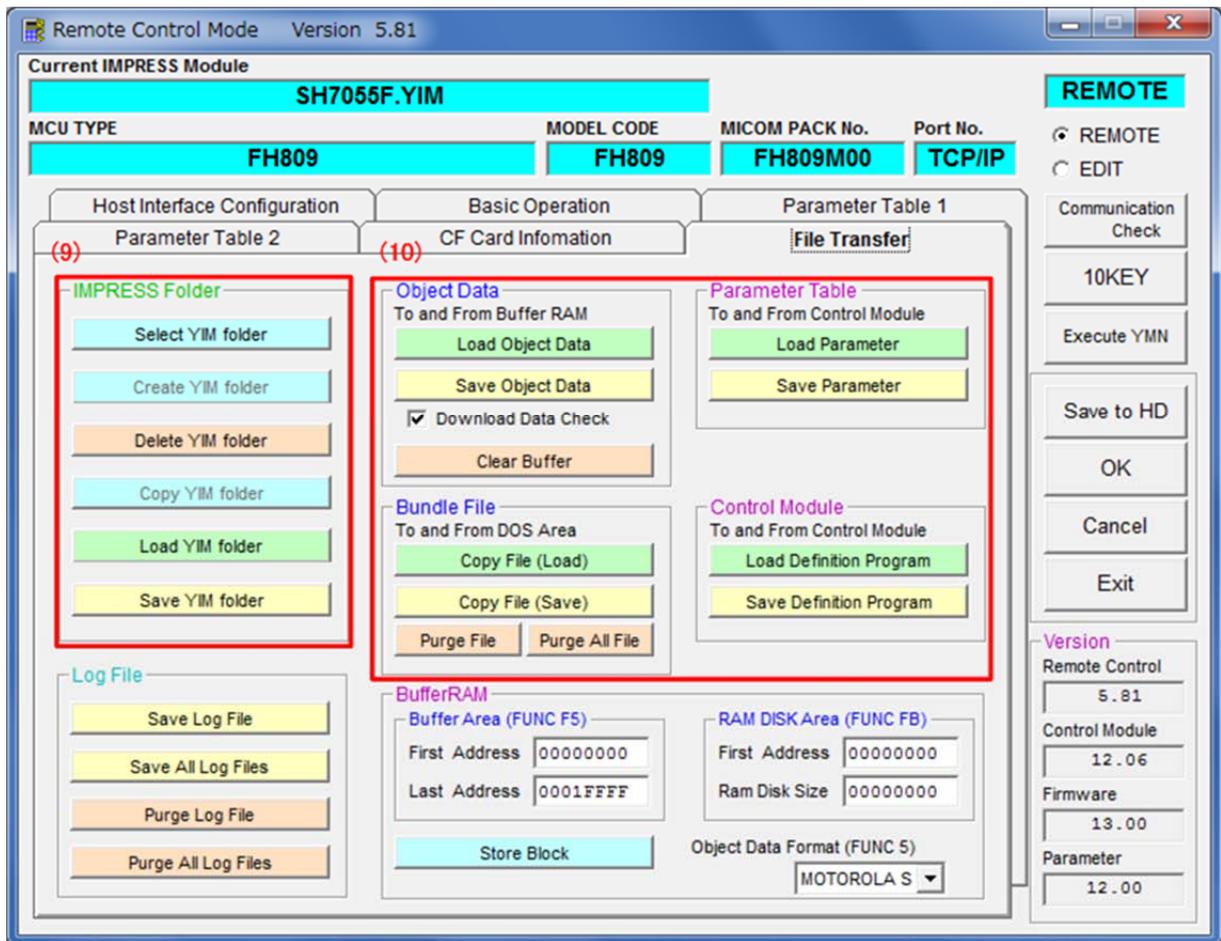
➡ 設定値の詳細は、ご使用になるコントロールモジュールのマニュアルをご確認ください。

(8) Data Communication

デバイスとプログラマ間の通信設定をおこないます。通信方法(UART、または、CSI)、および、ボーレートを設定します。

6.3. File Transfer(ファイル転送画面)

File Transfer 画面では、ライセンスの追加、プログラミング環境の設定に必要なファイルの転送、YIM フォルダの作成 / 選択 / コピー / 削除などをおこないます。



(9) IMPRESS Folder

YIM フォルダの作成や、Folder / File List で選択した YIM フォルダやファイルの操作をおこないます。Folder / File List は、別ウィンドウとして表示されます。

(10) ファイル転送

Object Data:

プログラミングするオブジェクトのバッファメモリへの転送、または、バッファメモリ上のデータをホスト PC に保存する際に使用します。

Bundle File:

バンドルファイルのプログラマへの転送、または、ホスト PC に保存する際に使用します。

Parameter Table:

パラメータファイルのプログラマへの転送、または、ホスト PC に保存する際に使用します。

Control Module:

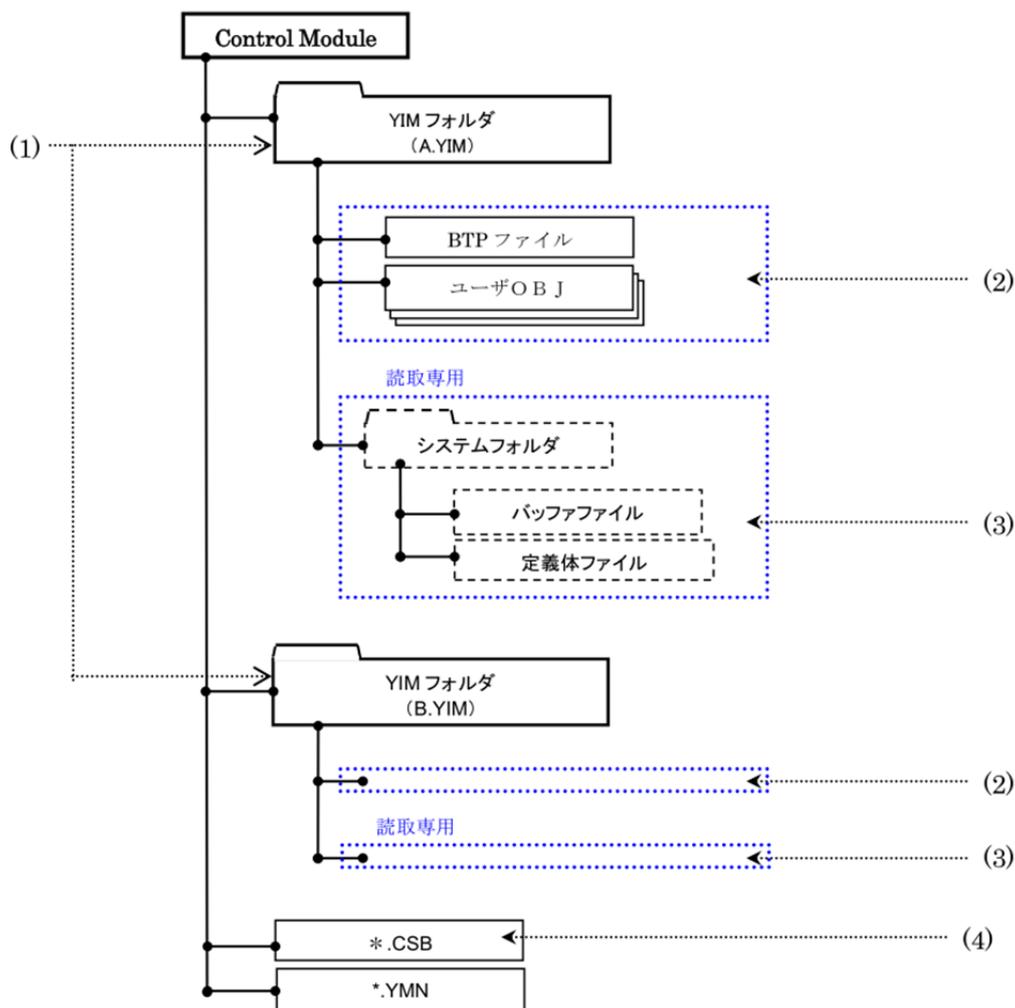
定義体ファイルのプログラマへの転送、PC への保存に使用します。

7. YIM フォルダ

7.1. YIM フォルダの構成

コントロールモジュールのプログラミングオブジェクト、および、プログラミング環境は、YIM フォルダで管理します。

- (1) YIM フォルダはコントロールモジュール内に複数個作成することができます。また、ファンクション操作によってカレントとなる YIM フォルダを切り替えることができます。
- (2) YIM フォルダ内には、BTP ファイル(*.BTP)、ユーザ OBJ(*.KEY、*.YSM など)を配置します。
- (3) 作成された YIM フォルダごとに、一種類ずつのバッファファイル(BUF.SYS)、定義体ファイル(CM.SYS)を配置します。



! BUF.SYS ファイル、CM.SYS ファイルを変更、消去しないでください。変更、消去した場合、正常にプログラミングを実行することができなくなります。

✓ AZ490(リモートコントローラ)を使用して、YIM フォルダ内のファイル構成を確認することができます。ただし、読み取り専用領域を参照することはできません。

➡ YIM フォルダの作成方法については、本マニュアルの「4.2 YIM フォルダの作成」をご参照ください。

7.2. プログラミング環境の管理

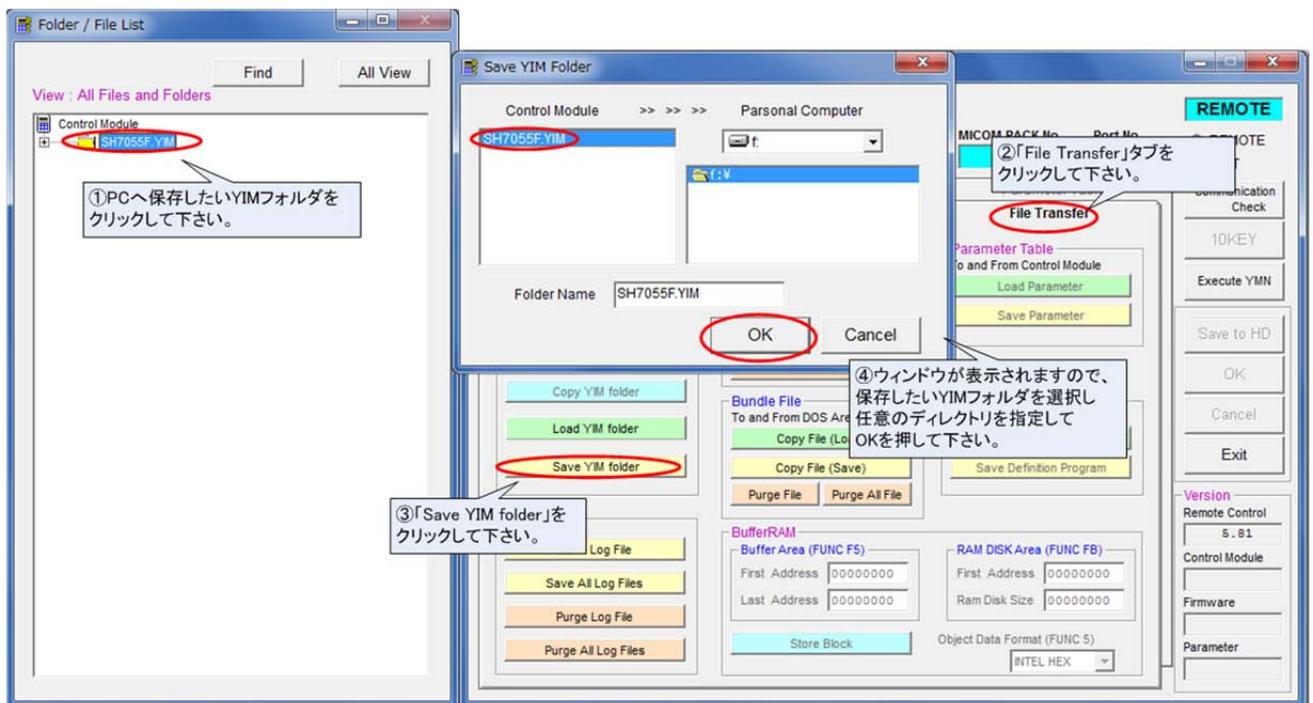
コントロールモジュール内に作成した YIM フォルダを AZ490(リモートコントローラ)を使用して、ホスト PC に保存することができます。拠点への作業環境の展開などをおこなう場合に、保存した YIM フォルダを転送することによって、同じプログラミング環境を再現することができます。

YIM フォルダの保存方法とロード方法は下記のとおりです。

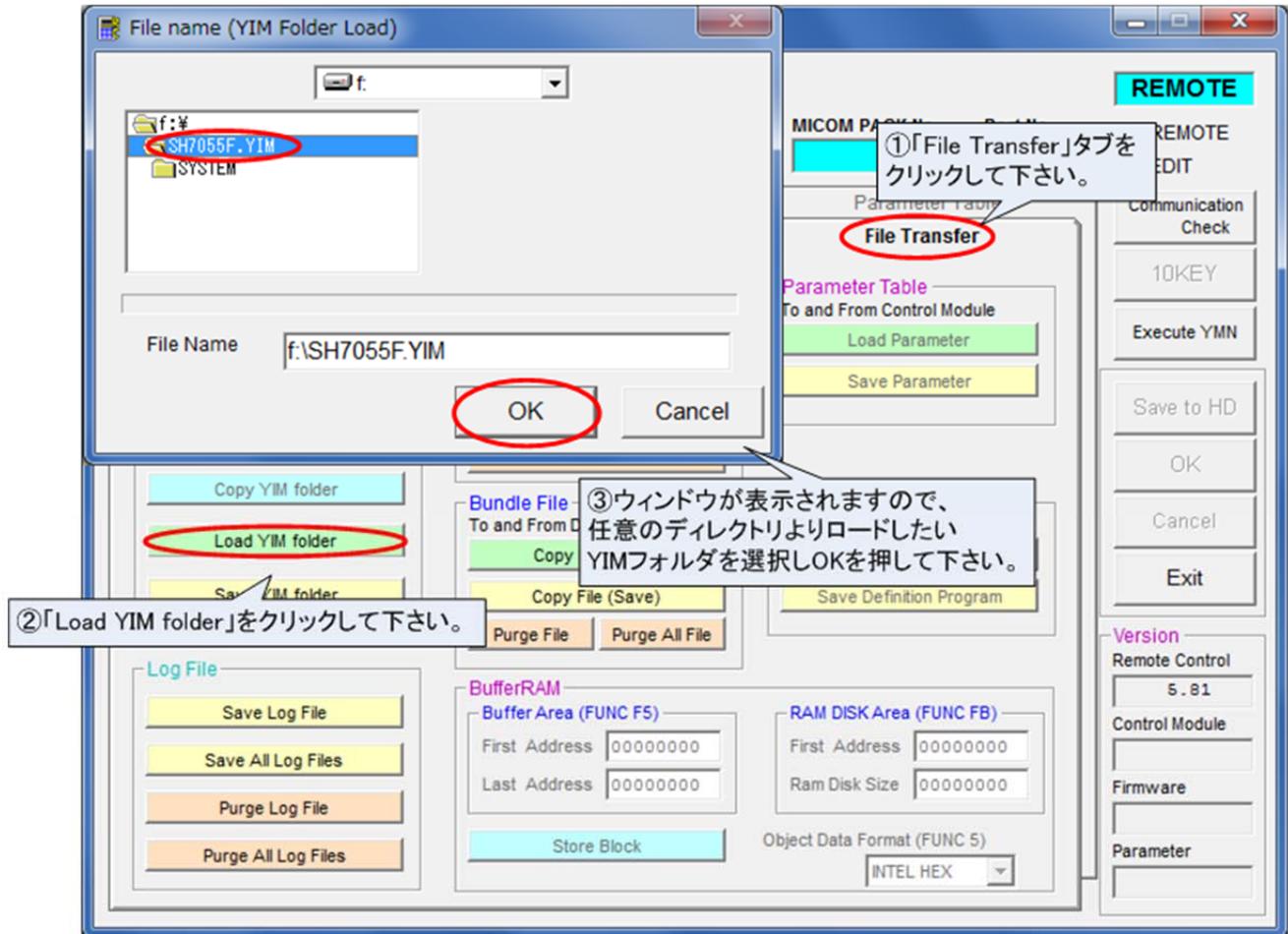


YIM フォルダの転送によって複数のコントロールモジュールでプログラミング環境を共有する場合には、転送先のコントロールモジュールに、転送元と同一の定義体ライセンスが必要です。

7.2.1. YIM フォルダの保存方法 (転送元の操作)



7.2.2. YIM フォルダのロード方法 (転送先の操作)



8. KEY ファイル

ご使用のマイコンによっては、セキュリティ機能を持つものがあります。

一般的なセキュリティ機能では、プログラマがマイコンにアクセス(書き込み/読み出し)する際に、あらかじめマイコンに書き込まれている暗号データ(ID コード)をプログラマから送信し、これらが一致しないとアクセスができない、という仕組みになっています。書き込まれている内容がわかっている場合にしか内蔵フラッシュメモリ領域にアクセスできないため、第三者による不正なデータ書き込みや、読み出しを防ぐことができます。

NETIMPRESS next では、暗号データ(ID コード)を保存した KEY ファイルを作成して、プログラミング時のセキュリティ解除をおこないます。

KEY ファイル

- プログラマがデバイスファンクションを実行する際に、自動的に ID コードをデバイスに発行し、セキュリティチェックをおこなうためのファイルです。
- セキュリティ ID アドレス・ID サイズ・ID データ値を保管しています。
- KEY ファイルは YIM フォルダ内に配置します。AZ490(リモートコントローラ)よりバンドルファイルとしてダウンロードしてください。

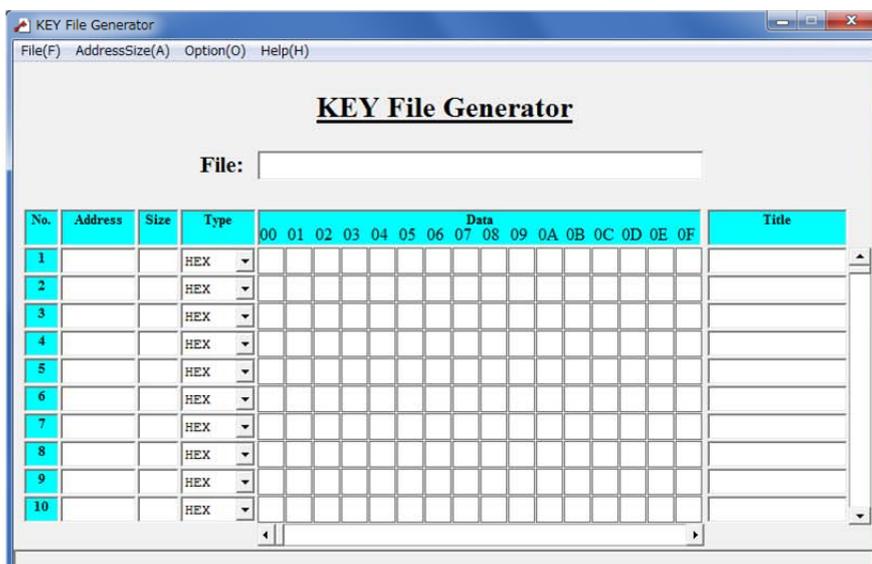
➡ バンドルファイルのダウンロード方法については、本マニュアルの「4.3 各種ファイルのダウンロード」をご参照ください。

! セキュリティ機能の仕様は、個々のマイコンごとに異なります。詳細は、ご使用になるコントロールモジュールのマニュアル、および、マイコンパックのマニュアルをご参照ください。

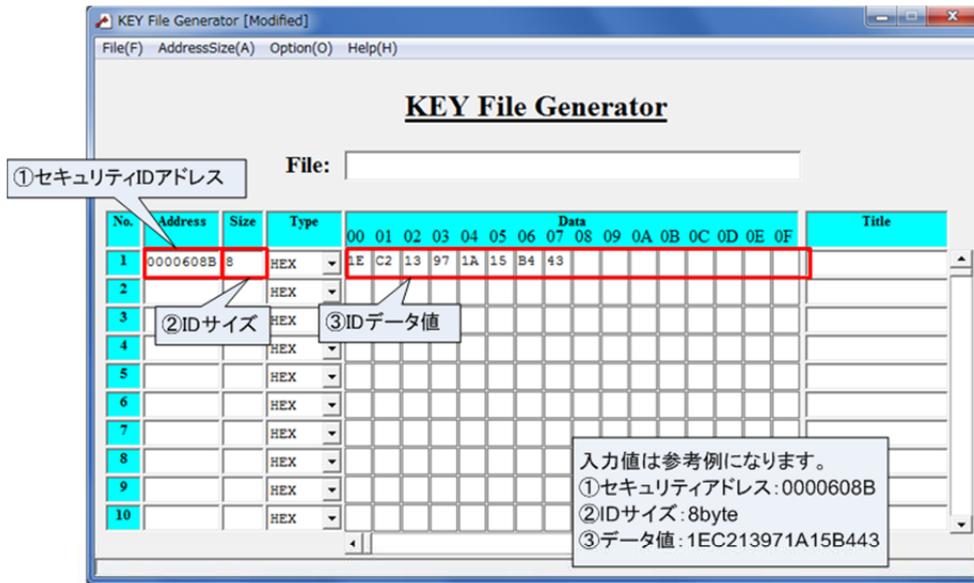
8.1. KEY ファイルの作成

KEY ファイルは AZ481(KEY ファイルジェネレータ)を使用して作成します。

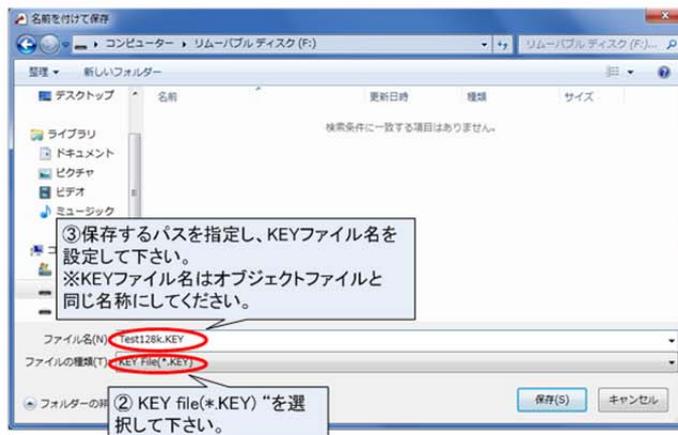
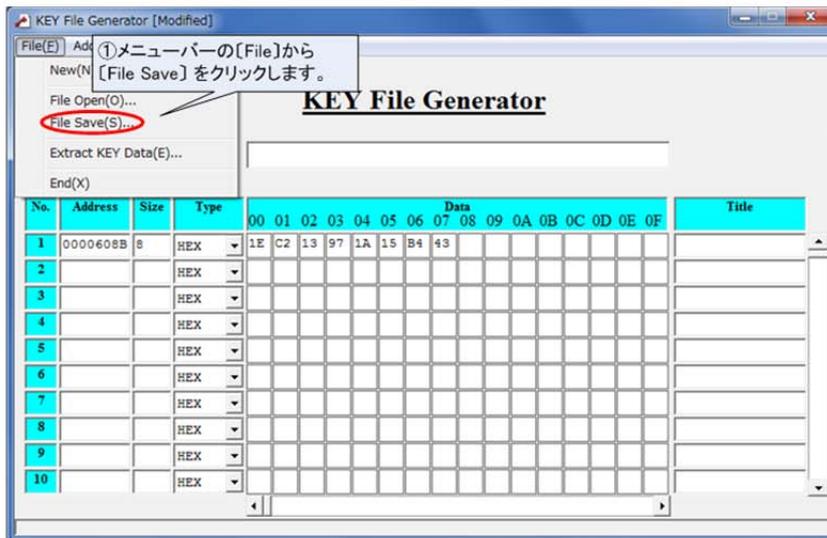
- ① AZ481(KEY ファイルジェネレータ)を起動します。



② セキュリティ ID アドレス・ID サイズ・ID データ値を入力します。



③ KEY ファイルを保存します。(メニューバー[File]メニュー - <File Save>をクリック。) ファイルの種類として、“KEY file (*.KEY)”を選択し、KEY ファイルを保存するパスを指定します。KEY ファイルのファイル名を設定して、「保存」をクリックします。



! YSM ファイルのファイル名は、ユーザオブジェクトファイルを同じ名称にしてください。

9. YSM ファイルのバッファ領域SUM 値チェック機能

YSM ファイルにバッファメモリの SUM 値を保存しておくことにより、デバイスファンクションを実行するたびに、ユーザオブジェクトの SUM 値をチェックすることができます。この機能により、例えば、誤ったプログラミングするバッファメモリの内容が不意にデータ化けしてしまった場合など、誤ったオブジェクトデータのプログラミングを防止することができます。

9.1. YSM ファイルについて

バッファメモリの SUM 値を保存した YSM ファイルを作成して、YIM フォルダに配置します。

デバイスファンクション完了後、プログラマが YSM ファイル内の SUM 値とデバイスファンクション実行時の SUM 値を自動的に比較します。一致しない場合はエラー(YSM CHECK ERROR)となります。

YSM ファイルは、AZ490(リモートコントローラ)を使用して、バンドルファイルとしてダウンロードしてください。

➡ バンドルファイルのダウンロード方法については、本マニュアルの「4.3 各種ファイルのダウンロード」を参照してください。

9.2. YSM ファイルの作成

YSM ファイルの作成方法は下記のとおりです。

- ① AZ481(KEY ファイルジェネレータ)を起動します。
- ② 下記の手順で YSM ファイルを作成します。
メニューバー [Option]メニュー - <Address Sort Off>を選択してください。
データを入力します。(通常は、No.1 と No.2 の 2 項目のみです)

The screenshot shows the 'KEY File Generator' application window. The 'Option(O)' menu is open, and 'Address Sort Off(F)' is selected and circled in red. A callout box points to this menu item with the text: '①メニューバーの[Option]から [Address Sort Off] を選択します。' Below the menu, a table is visible with columns for row number, address, size, and data. Callout boxes provide instructions for data entry:

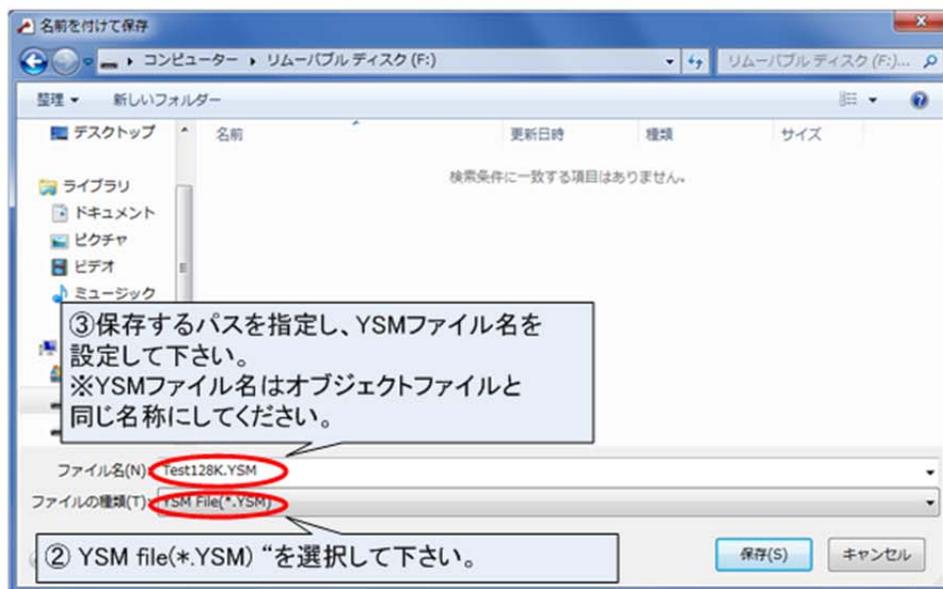
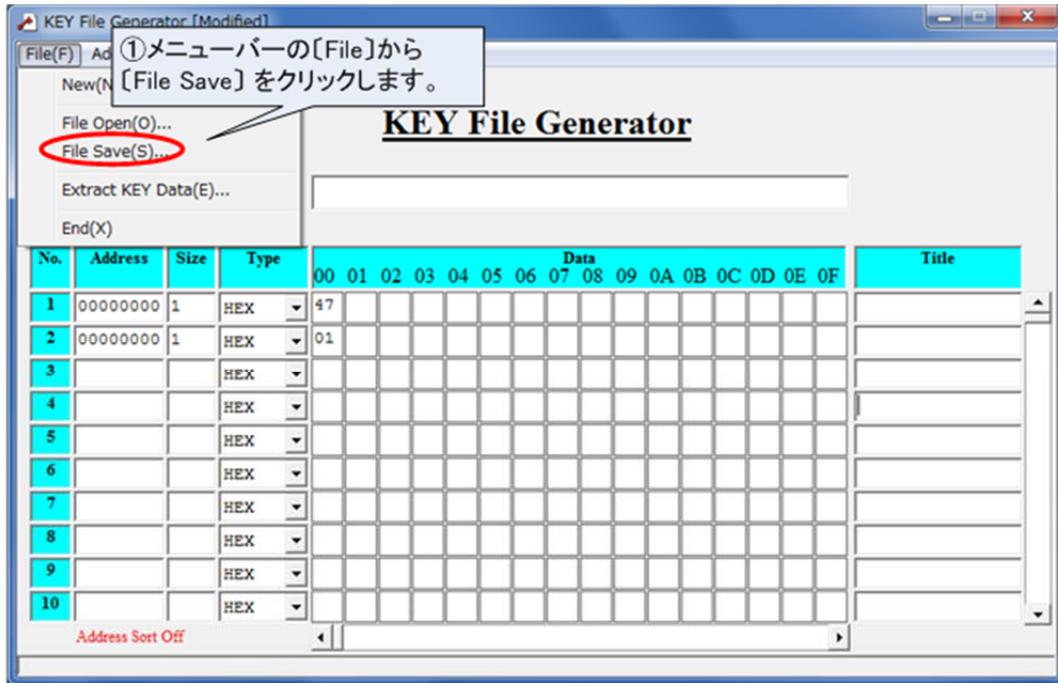
- ②SUM値データの入力をします。No.1の行に入力して下さい。
Address = 00000000(固定)
Size = 1 (SUM値のサイズです。1byteであれば" 1 "、2byteであれば" 2 "を入力して下さい)
Data = SUM値 (AZ490のBasic Operation " Buffer SUM "でSUM値を計算して下さい)
- ③SUM値チェックの実行・未実行チェックフラグの入力をします。
No.2の行に入力して下さい。
Address = 00000000(固定)
Size = 1(固定)
Data = " 01 " or " 00 " (SUM値チェックする場合は01、SUM値チェックしない場合は00を入力して下さい)

The table in the screenshot shows the following data for the first two rows:

Row	Address	Size	Data
1	00000000	1	47
2	00000000	1	01

- ③ YSM ファイルを保存します。(メニューバーの[ファイル]メニュー - <File Save>をクリック)
 ファイルの種類として“YSM file (*.YSM)”を選択し、YSM ファイルを保存するパスを指定します。
 YSM ファイルのファイル名を設定して、「保存」をクリックします。

! YSM ファイルのファイル名は、ユーザオブジェクトファイルと同じ名称にしてください。



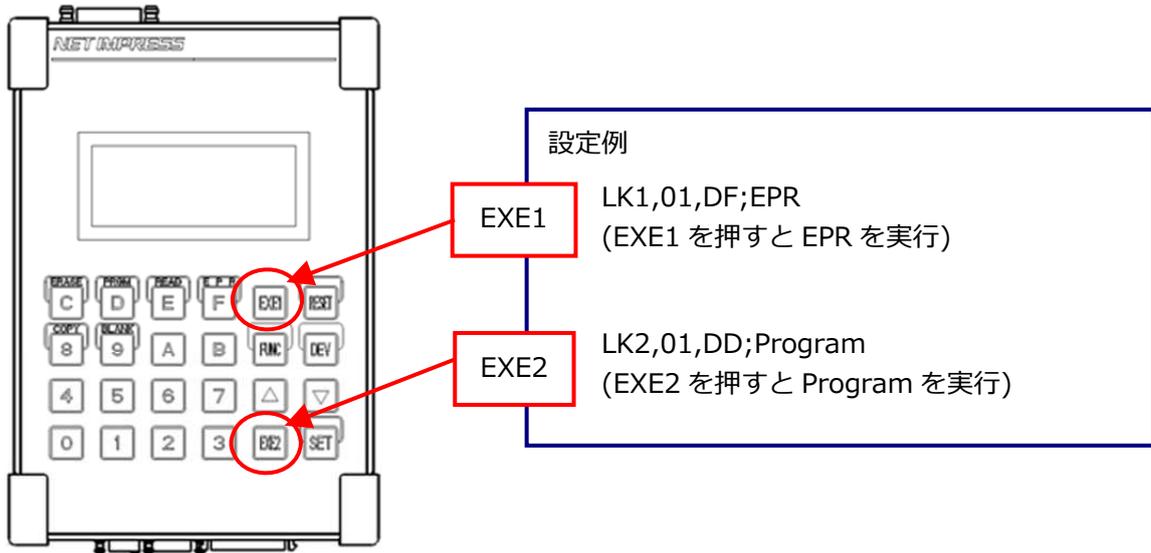
- ✓** YSM ファイルを使用した SUM 値チェック機能では、バッファメモリの特定エリアのデータをチェックすることもできます。この機能により、ユーザオブジェクトファイルのバージョンチェックなどにご活用いただくこともできます。

➡ 詳細は、「NETIMPRESS next Instruction Manual」
 (NETIMPRESS_next_mnjnn.pdf)にある、「7. サムチェック機能」をご参照ください。

10. EXE キーと CSB ファイル

NETIMPRESS next 本体上面にある 2 つの EXE キー(EXE1, EXE2)に、一連のコマンドシーケンス操作を割り当てることができます。コマンドシーケンスを割り当てるために、CSB ファイルを作成します。

CSB ファイルはテキストエディタで編集することができます。



CSB ファイルの名称は任意ですが、拡張子(.CSB)を付けて保存してください。

CSB ファイルは、コントロールモジュールのルートディレクトリに 1 つだけ配置することができます。

10.1. CSB ファイルのフォーマット

CSB ファイルのフォーマットは、下記の通りです。コマンドの区切りは、","(1 バイト)を使用します。

```

LK1, count, cmd1, cmd2, ..., cmd16; comment
LK2, count, cmd1, cmd2, ..., cmd16; comment
  ①    ②    ③                ④    ⑤
  
```

① KEY No.コード (3 バイト):

LK1 = EXE1 キーへのアサインを示します。

LK2 = EXE2 キーへのアサインを示します。

② count (2 バイト):

実行コマンドの数を示します。10 進表記のため、“09”の上は“10”となり、最大値は、“16”です。未使用とするキーに対しては“00”を設定してください。

③ *cmd1, cmd2, …, cmd16*:

実行するコマンドを記載します。

コマンド定義一覧

コマンドコード	内容
F0 (XXXXXXXX YYYYYYYY)	デバイスファンクション領域設定 (XXXXXXXX: ファーストアドレス、YYYYYYYY: ラストアドレス) ※アドレス省略時は、フラッシュ ROM 全領域。
F1 (XXXXXXXX YYYYYYYY ZZ)	ブロックストア (XXXXXXXX: ファーストアドレス、YYYYYYYY: ラストアドレス、ZZ: データ) ※アドレス、データ省略時は、フラッシュ ROM 全領域、データは 00。
F2	バッファメモリクリア
FF1 (XXXXXXXX.YYY)	ファイル呼び出し (XXXXXXXX.YYY: ロードファイル名)
FF5 (XXXXXXXX YYYYYYYY)	転送アドレス設定 (XXXXXXXX: ファーストアドレス、YYYYYYYY: ラストアドレス) ※アドレス省略時は、フラッシュ ROM 全領域。
D9	Blank (デバイスファンクション)
DC	Erase (デバイスファンクション)
DD	Program (デバイスファンクション)
DE	Read (デバイスファンクション)
DF	E.P.R. (デバイスファンクション)
FB0 (XXXXXXXX.YIM)	カレント YIM フォルダの切替え (XXXXXXXX.YIM: YIM フォルダ名)
FBD (XXXXXXXX.YMN)	カレント YMN ファイルの実行 (XXXXXXXX.YMN: 実行対象の YMN ファイル名)



CSB ファイル内で設定可能なコマンドの最大数は、16 コマンドまでです。

④ コメント区切り “;” (1 バイト):

⑤のコメントとの区切りを示します。

⑤ *comment* (任意の文字列 + CRLF):

コメントを記述します。



行末には、必ず改行コード(CRLF)を挿入してください。

2 行目(LK2 設定行)も、必ず改行コードを入れてください。

10.2. CSB ファイルの作成例

例 1 (Test.csb 標準添付サンプル)

各種コントロールモジュールに、Test.csb というファイルが添付されています。この CSB ファイルの記述内容は、以下のとおりです。

【記述内容】

```
LK1,01,DF;EPR
```

```
LK2,01,DD;Program
```

【実行シーケンス内容】

EXE1 キー = E.P.R.実行、EXE2 キー = Program 実行

※前提条件: YIM フォルダが選択された状態になっていること。

例 2

【記述内容】

```
LK1,01,FB0(SH7058RED.yim);CHANGE YIM
```

```
LK2,01,DF;E.P.R
```

【実行シーケンス内容】

EXE1 キー = 指定 YIM フォルダをロード、EXE2 キー = E.P.R.実行

“EXE1”キーを押すと、“SH7058RED.YIM”が Current IMPRESS Module としてロードされます。

“EXE2”キーを押すと、“SH7058RED.YIM”の内容がターゲットに EPR されます。

例 3

【記述内容】

```
LK1,04,FB0(SH7750R01.yim),DF,FB0(SH7750R02.yim),DF;2file sequence EPR
```

```
LK2.01.DC;Erase
```

【実行シーケンス内容】

EXE1 キー = 2 つの YIM フォルダの連続プログラミング、EXE2 キー = Erase 実行

“EXE1”キーを押すと、“SH7750R01.YIM”が Current IMPRESS Module としてロードされ、その内容がターゲットに EPR されます。

続いて、“SH7750R02.YIM”が Current IMPRESS Module としてロードされ、その内容がターゲットに EPR されます。

“EXE2”キーを押すと、ターゲットのフラッシュメモリが Erase されます。

【用途例】

フラッシュマイコンに外部フラッシュメモリが接続されている基板に対し、内蔵フラッシュと外部フラッシュの両方にプログラミングする場合、など。

11. 用語一覧

用語	説明
コントロールモジュール	ライター本体に挿入して使用する CF カードです。NETIMPRESS 使用時は必ずコントロールモジュールが必要です。 また、オブジェクトファイルや、各種書き込み条件ファイルをコントロールモジュールの YIM フォルダ内にあらかじめダウンロードしておくことで、パソコンなしのスタンドアロンでの利用が可能です。
マイコンパック	弊社のホームページからダウンロード可能な、各種マイコンに対応したパラメータファイル等です。マイコンパックファイルは、自動解凍形式(EXE ファイル)のファイルになっており、Windows 上でファイルのダブルクリックで解凍が可能です。 マイコンパックのファイル構成は、パラメータファイル(拡張子.PRM)、PDF マニュアル、書き込み制御プログラム(拡張子.BTP)、readme ファイルなどです。(マイコンによりファイル内容が異なります)
バッファメモリ	NETIMPRESS では、書き込み対象となるマイコンと同一メモリマップのバッファメモリを NETIMPRESS 上のコントロールモジュール上の各 YIM フォルダ内にもっています。メモリマイコンのフラッシュメモリに書き込み時は、このバッファメモリ上のデータが書き込みされます。 NETIMPRESS では、バッファメモリ上にユーザーのオブジェクトファイルをロード/セーブする機能や、バッファメモリの編集(エディット)機能などがあります。
定義体	コントロールモジュールの各 YIM フォルダ内に、各種マイコンと通信するために持っている固有のプログラムです。定義体の一部はパラメータとなっていて、リモートコントローラ AZ490 を使用して変更が可能です。(定義体を使用する際には、コントロールモジュール毎にライセンスの購入が必要です。)
オブジェクトファイル	ユーザーがマイコンのフラッシュに書き込むためのプログラム/データファイルです。NETIMPRESS では、バイナリ、インテル HEX、モトローラ S の形式に対応しています。
書き込み制御プログラム	一部のフラッシュマイコンでは、シリアル書き込みモードで動作する為のプログラム(ファームウェア)がマイコンに内蔵されていません。これらのマイコンを NETIMPRESS で使用する場合は、NETIMPRESS から書き込み制御プログラムをマイコンにダウンロードする必要があります。 これらのマイコンはライターモードで起動時にブートプログラムが実行され、この中で書き込み制御プログラムをダウンロードしています。ダウンロードする書き込み制御プログラムは、対応するマイコンのファイル(拡張子.BTP)をコントロールモジュールの YIM フォルダ内にコピーして下さい。
WCP	書き込み制御プログラム(Write Control Program)の略称です。
BTP ファイル	書き込み制御プログラムのファイル(拡張子が.BTP)を指します。

カレントファイル	現在、作業中のファイルのファイル名がカレントファイル名です。ファイルロード時 ([FUNC][F][1]) にカレントファイル名がセットされます。現在のカレントファイル名は[FUNC][F][4]にて確認できます。
AMK ファイル	<p>セキュリティ機能のあるマイコンで、スタンドアロン使用時に KEY ファイルを使用しない場合に、ID データを操作パネル上で手入力する際に暗号アドレスの入力を省略する為の用意するファイルです。(拡張子 .AMK)また、マスターキーファイルとして、オブジェクトデータによらず固定の ID コードをマイコンに送信するために使用します。</p> <p>AMK ファイルはマイコンパックでも提供されています。新たに作成する場合、ファイル名はマイコンにより固定となります。ファイル名のつけ方はコントロールモジュールのマニュアルを参照して下さい。</p> <p>ファイルは、暗号アドレスおよびダミーデータ(FF)を含むモトローラ S 形式です。AZ481 ファイルジェネレータを使用して作成します。</p>



NET IMPRESS next スタートアップマニュアル

株式会社DTSインサイト

URL : https://www.dts-insight.co.jp/support/support_netimpress/

2015年3月31日 第1版発行

© 2015 DTS INSIGHT CORPORATION. All rights reserved.